



音声設定の構成

- [情報 \(Information\)](#) (1 ページ)
- [システム](#) (3 ページ)
- [SIP](#) (4 ページ)
- [プロビジョニング](#) (15 ページ)
- [地域](#) (21 ページ)
- [回線 1 と回線 2 \(電話 1 と電話 2\) の設定](#) (42 ページ)
- [ユーザー 1 およびユーザー 2](#) (61 ページ)

情報 (Information)

音声 > 情報 ページから、ATA 音声アプリケーションに関する情報を表示します。

製品情報

表 1: 製品情報

フィールド	説明
Product Name	ATA の製品名。
シリアル番号	ATA のシリアル番号。
ソフトウェア バージョン	ATA のソフトウェア バージョン。
[ハードウェアバージョン (Hardware Version)]	ATA のハードウェア バージョン。
[MAC アドレス (MAC Address)]	ATA の Mac アドレス。
クライアント証明書	ATA のクライアント証明書。
[カスタマイズ (Customization)]	ATA のカスタマイズ

システムステータス (System Status)

表 2: システムステータスの設定

フィールド	説明
現在の日時	システムの現在の日付と時刻。例：10/3/2003 16:43:00 [ネットワークセットアップ] の > [時間設定] ページから、システム時刻を設定します。
経過時間	システムが最後にリブートしてから経過した合計時間。 例：25 日間、18:12:36
RTP パケット送信	送信された RTP パケットの総数 (冗長なパケットを含む)。
RTP バイト送信済み	送信された RTP バイトの総数
RTP パケット数 (RTP Packets Recv)	受信した RTP パケットの総数 (冗長なパケットを含む)。
RTP 受信バイト数 (RTP Bytes Recv)	受信した合計 RTP バイト数。
[送信 SIP メッセージ (SIP Messages Sent)]	送信された SIP メッセージの合計数 (再送信も含む)。
[SIP 送信バイト数 (SIP Bytes Sent)]	送信された SIP メッセージの合計バイト数 (再送信も含む)。
[受信 SIP メッセージ (SIP Messages Recv)]	受信された SIP メッセージの合計数 (再送信も含む)。
[SIP 受信バイト数 (SIP Bytes Recv)]	受信した SIP メッセージの合計バイト数 (再送信も含む)。
外部 IP (External IP)	NAT マッピングに使用される外部 IP アドレス。

回線 1 と回線 2 (電話 1 と電話 2) の設定

電話 1 および電話 2 のポートを介したコールの設定を設定するには、**音声 > 回線 1** ページおよび **音声 > 回線 2** ページから行います。

説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、**送信** をクリックして設定を保存するか、**キャンセル** をクリックして、設定を保存したページを再表示します。



(注) 設定プロファイルでは、FXS パラメータに、設定を受信するポートを識別するための適切な数字が含まれている必要があります。

カスタム CA ステータス

表 3: CA ステータス設定

フィールド	説明
[カスタムCAプロビジョニングステータス (Custom CA Provisioning Status)]	最新のカスタム CA (認証局) 証明書のダウンロードのステータス。
[カスタムCA情報 (Custom CA Info)]	カスタム CA 証明書がインストールされていない場合、CA情報が正常にダウンロードされ、「インストールされていません」となります。 デフォルト設定: 未インストール

登録ステータス

表 4: 登録ステータス設定

フィールド	説明
[プロビジョニングプロファイル (Provisioning Profile)]	プロファイルルールの設定 デフォルト設定: 空
登録ステータス	最後のプロビジョニングのステータスを示します。 デフォルト設定: 空
[プロビジョニング失敗の理由 (Provisioning Failure Reason)]	失敗した理由 デフォルト設定: 空

システム

音声 > システム ページから、一般的な音声システム設定を構成し、syslog サーバを使用したロギングを有効にします。ロギングは、管理 > ロギング ページからも設定できます。

システム設定

表 5: システム設定

フィールド	説明
[制限付きアクセスドメイン (Restricted Access Domains)]	Cisco IP 電話が指定されたサーバからの SIP メッセージにのみ応答するドメインです。回線 1 に適用可能です。
IVR 管理者パスワード	管理者が、接続された電話によって組み込まれている IVR を使用して ATA を管理するためのパスワードです。
ネットワーク起動遅延	音声モジュールを再起動して、ネットワークインターフェイスを初期化するまでの遅延秒数です。 デフォルト設定 : 3

その他の設定

表 6: その他の設定

フィールド	説明
DNS クエリ TTL 無視	DNS パッケージでは、サーバがクライアントに対して TTL 値を提示します。このパラメータが [はい] に設定されている場合、サーバからの値は無視されます。 デフォルト設定: なし

SIP

音声 > SIP ページから、SIP のパラメータと値を設定します。

以下の説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、**送信**をクリックして設定を保存するか、**キャンセル**をクリックして、設定を保存したページを再表示します。



(注) これらのフィールドの詳細については、「Request to Comments (RFC) 3261」を参照してください。

SIP パラメータ

表 7: SIP パラメータ設定

フィールド	説明
最大転送 (Max Forward)	コールを転送できる最大時間。有効な範囲は 1 ~ 255 です。 デフォルト設定:70
最大リダイ렉션 (Max Redirection)	無限ループを避けるために INIVTE をリダイレクトできる回数。 デフォルト設定 : 5
最大認証 (Max Auth)	リクエストにチャレンジすることができる最大回数 (0 ~ 255 回)。 デフォルト設定 : 2
SIP ユーザ エージェント名 (SIP User Agent Name)	アウトバウンドリクエストで使用されるユーザエージェントヘッダー。空の場合、ヘッダーは含まれません。許可される GPP_A ~ GPP_D に対応する \$A ~ \$D のマクロ展開。 デフォルト設定: \$VERSION
SIP サーバ名 (SIP Server Name)	インバウンド応答への応答に使用されるサーバヘッダー。 デフォルト設定: \$VERSION
SIP 登録ユーザ エージェント名 (SIP Reg User Agent Name)	登録リクエストで使用するユーザー エージェントの名前。この値を指定しない場合、SIP ユーザ エージェント名のパラメータが REGISTER 要求にも使用されます。 デフォルト設定 : 空白
SIP 登録開始シーケンス番号	SIP 登録メッセージシーケンス番号を定義します。 デフォルト設定 : 空白
SIP 受け入れ言語 (SIP Accept Language)	使用される Accept-Language ヘッダー。デフォルトはありません。これは、ATA にこのヘッダーが含まれていないことを示します。空の場合、ヘッダーは含まれません。 デフォルト設定 : 空白
DTMF リレー MIME タイプ (DTMF Relay MIME Type)	DTMF イベントを通知するために SIP INFO メッセージで 사용되는 MIME タイプ。 デフォルト設定: Application/dtmf-relay.

フィールド	説明
フックフラッシュ MIME タイプ (Hook Flash MIME Type)	フックフラッシュイベントを通知するために SIP INFO メッセージで使用される MIME タイプ。 デフォルト設定: アプリケーション/フック-フラッシュ。
最後の登録の削除 (Remove Last Reg)	値が異なる場合は、新しい登録を送信する前に ATA によって最後の登録が削除されるかどうかを確認します。最後の登録を削除する場合は [はい] を、このステップを省略する場合は [いいえ] を選択します デフォルト設定: なし
コンパクトなヘッダーを使用 (Use Compact Header)	ATA がアウトバウンド SIP メッセージでコンパクトな SIP ヘッダーをしようするかどうかを決定します。 はい に設定すると、アウトバウンド SIP メッセージでコンパクトな SIP ヘッダーを使用します。 標準 SIP ヘッダーを使用する場合は、 いいえ を選択します。 インバウンド SIP 要求にコンパクトヘッダーが含まれる場合、ATA は使用コンパクトヘッダーのパラメータに関係なく、応答を生成するときに同じヘッダーを再利用します。着信 SIP リクエストに通常のヘッダーが含まれている場合、[コンパクトヘッダーを使用する] が [はい] に設定されている場合、ATA はそれらのヘッダーを、RFC 261 で指定します。 デフォルト設定: なし
表示名のエスケープ (Escape Display Name)	表示名がプライベートかどうかを確認します。アウトバウンド SIP メッセージの場合に、ATA で文字列 (表示名に設定されている) をペアの二重引用符で囲むには、 はい を選択します。表示名に " または \ が含まれている場合、これらは二重引用符内にある \" または \\ にエスケープされます。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: なし
RFC 2543 コール保留 (RFC 2543 Call Hold)	コール保留のタイプを次の 0.0.0.0 ように設定します。保留 SDP では、0.0.0.0 シンタックスを使用しないでください。この場合は、a:sendonly シンタックスを使用します。 デフォルト設定: あり

フィールド	説明
すべての AVT パケットをマークします。	すべての AVT トーンパケットを冗長性用にエンコードして、各 DTMF イベントのマーカビットを設定する場合は、[はい]を選択します。 最初のパケットにマーカビットのみを設定するには、[いいえ]を選択します。 デフォルト設定: あり
AVT パケットサイズ	Ptime または固定された 10ms に設定された値に従って、AVT パケットサイズを示します。 デフォルト設定: ptime
SIP TCP ポートの最小値 (SIP TCP Port Min)	SIP セッションに使用できる最小の TCP ポート番号。 デフォルト設定: 5060
SIP TCP ポートの最大値 (SIP TCP Port Max)	SIP セッションに使用できる最大の TCP ポート番号。 デフォルト設定: 5080
CTI の有効化:	一部のサーバに用意されているコンピュータコールインターフェイス機能を有効または無効にします。 デフォルト設定: なし
参照が失敗したときに Referee を維持する (Keep Referee When REFER Failed)	このパラメータをはいに設定すると、電話機は NOTIFY sipfrag メッセージを処理するように設定されます。 このパラメータは、設定ファイルでも設定できます。 <Keep_Referee_When_REFER_Failed ua="na">Yes </Keep_Referee_When_REFER_Failed>
発信者 ID ヘッダー (Caller ID Header)	PAID-RPID-FROM、P-ASSERTEDIDENTITY、REMOTE-ID、または FROM ヘッダーから発信者 ID を取得するためのオプションを提供します。 デフォルト設定: PAID-RPID-FROM

SIP タイマー値

表 8: SIP タイマー値設定

フィールド	説明
[SIP T1]	0 ~ 64 秒の範囲の RFC 3261 T1 値 (RTT 推定)。 デフォルト設定: 0.5

フィールド	説明
[SIP T2]	0 ～ 64 秒の範囲の RFC 3261 T2 値（非 INVITE 要求と INVITE 応答の最大再送信間隔）。 デフォルト設定: 4
[SIP T4]	0 ～ 64 秒の範囲の RFC 3261 T4 値（メッセージがネットワーク内にとどまる最大継続時間）。 デフォルト設定: 5
[SIPタイマーB（SIP Timer B）]	0 ～ 64 秒の範囲の INVITE タイムアウト値。 デフォルト設定: 32
[SIPタイマーF（SIP Timer F）]	0 ～ 64 秒の範囲の非 INVITE タイムアウト値。 デフォルト設定: 16
[SIPタイマーH（SIP Timer H）]	0 ～ 64 秒の範囲の H INVITE 最終応答、タイムアウト値。 デフォルト設定: 32
[SIPタイマーD（SIP Timer D）]	0 ～ 64 秒の範囲の ACK ハングアラウンド時間。 デフォルト設定: 32
[SIPタイマーJ（SIP Timer J）]	0 ～ 64 秒の範囲の非 INVITE 応答ハングアラウンド時間。 デフォルト設定: 32
[INVITE期限（INVITE Expires）]	INVITE 要求の Expires ヘッダー値。0 を入力すると、要求に Expires ヘッダーは含まれません。範囲: 0-(2 ³¹ -1) デフォルト設定: 240
[ReINVITE期限（ReINVITE Expires）]	ReINVITE 要求の Expires ヘッダー値。0 を入力すると、要求に Expires ヘッダーは含まれません。範囲: 0-(2 ³¹ -1) デフォルト設定: 30
[登録最小期限（Reg Min Expires）]	Expires ヘッダーでまたは Contact ヘッダー パラメータとしてプロキシから許可される最小登録期限。プロキシがこの設定よりも小さい値を返す場合、最小値が使用されます。 デフォルト設定: 1
[登録最大期限（Reg Max Expires）]	Min-Expires ヘッダーでプロキシから許可される最大登録期限。値がこの設定よりも大きい場合、最大値が使用されます。 デフォルト設定: 7200

フィールド	説明
登録再試行間隔 (Reg Retry Intvl)	登録が最後に失敗してから ATA が登録を再試行するまで待機する間隔。 デフォルト設定 : 30
[登録再試行ロング間隔 (Reg Retry Long Intvl)]	登録が [登録SRCの再試行] と一致しない SIP 応答コードで失敗した場合に、ATA は指定された時間待機してから再試行します。この間隔が 0 の場合、ATA は試行を停止します。この値は、[登録再試行間隔]の値よりも長い値に指定する必要があり、0 は指定できません。 デフォルト設定: 1200
[登録再試行ランダム遅延 (Reg Retry Random Delay)]	失敗後に REGISTER を再試行するときに [登録再試行間隔 (Reg Retry Intv)] に加算するランダム遅延範囲 (秒単位) 。 デフォルト設定: 0 (無効)
[登録再試行ロングランダム遅延 (Reg Retry Long Random Delay)]	失敗後に REGISTER を再試行するときに [登録再試行ロング間隔 (Reg Retry Long Intvl)] に加算するランダム遅延範囲 (秒単位) 。 デフォルト設定: 0 (無効)
[登録再試行間隔上限 (Reg Retry Intvl Cap)]	指数関数的バックオフ再試行遅延の上限となる最大値で、[登録再試行間隔 (Register Retry Intvl)] で開始して、登録再試行ごとに倍増します。再試行間隔は、常に失敗後の [登録再試行間隔 (Register Retry Intvl)] になります。この機能を有効にすると、[登録再試行ランダム遅延 (Reg Retry Random Delay)] の値が指数関数的バックアップ調整遅延値に加算されます。 デフォルト設定: 0 は、指数関数的なバックオフ機能を無効にします。

応答ステータスコード処理

表 9: 応答ステータスコードの設定

フィールド	説明
SIT1 RSC	適切な情報トーン (SIT) 用の SIP 応答ステータスコード。SIT 1RSC から SIT4 RSC のすべての失敗した応答ステータスコードに対して、デフォルトでリオーダーまたは話中トーンが再生されます。 デフォルト設定 : 空白

フィールド	説明
SIT2 RSC	SIT2 トーンを再生するように招待する SIP 応答ステータスコード。 デフォルト設定：空白
SIT3 RSC	SIT3 トーンを再生するように招待する SIP 応答ステータスコード。 デフォルト設定：空白
SIT4 RSC	SIT4 トーンを再生するように招待する SIP 応答ステータスコード。 デフォルト設定：空白
[バックアップRSCの試行 (Try Backup RSC)]	現在のリクエストに対してサーババックアップを再試行する SIP 応答コード。 デフォルト設定：空白
[登録RSCの再試行 (Retry Reg RSC)]	登録が最後に失敗してから ATA が登録を再試行するまで待機する間隔。 デフォルト設定：空白

RTP パラメータ

表 10: RTP パラメータ

フィールド	説明
[RTPポートの最小値 (RTP Port Min)]	RTP の送受信の最小ポート番号。 RTP Port Min および RTP Port Max パラメータは、100～106 のように、少なくとも 4 個の番号ポートを含む範囲を定義する必要があります。 デフォルト設定: 16384
[RTPポートの最大値 (RTP Port Max)]	RTP の送受信の最大ポート番号。 デフォルト設定: 16482
[RTPパケットサイズ (RTP Packet Size)]	0.01 ～ 0.16 の範囲のパケットサイズ (秒単位)。有効な値は 0.01 秒の倍数にする必要があります。 デフォルト設定: 0.030

フィールド	説明
RTP Tx Packet Size はリモート SDP に続きます。	リモートペア RTP パケットサイズを有効にします。 デフォルト設定: あり
[最大RTP ICMPエラー (Max RTP ICMP Err)]	RTP パケットをピアに送信するときに ATA がコールを終了するまでに許可されている連続 ICMP エラー数。値が 0 に設定された場合、ATA は ICMP エラーの制限を無視します。 デフォルト設定 : 0
[RTCP送信間隔 (RTCP Tx Interval)]	RTCP 送信者レポートをアクティブな接続で送信する間隔。有効範囲は 0 ~ 255 秒です。アクティブな接続中には、ATA をプログラムして、結合時に複合 RTCP パケットを送信することができます。最後の 1 つを除き、各複合 RTP パケットには、1 つの送付者レポート (SR) と 1 つの送信元記述 (SDES) が含まれます。最後の RTCP パケットには、追加の BYE パケットが含まれています。最後の 1 つを除き、各 SR には、正確に 1 つの受信者レポート (RR) が含まれます。最後の SR は RR を伝送しません。SDES には次のような CNAME、NAME、および TOOL 識別子が含まれます。CNAME は<ユーザ ID>@<Proxy> に設定されています。NAME は<表示名> (ユーザが発信者 ID をブロック) に設定されています。また、ツールはベンダー/ハードウェアプラットフォームソフトウェアのバージョンに設定されています。SR で使用される NTP タイムスタンプは、NTP サーバによってレポートされる時刻ではなく、ATA のローカル時間のスナップショットです。ATA は、ピアから RR を受信すると、ラウンドトリップ遅延を計算し、その値をコールラウンドトリップ遅延値 (ms) として情報ページに表示しようとしています。 デフォルト設定 : 0
UDP チェックサムなし	SIP メッセージの UDP ヘッダーチェックサムを ATA で計算する場合は、[はい] を選択します。それ以外の場合は、[いいえ] を選択します。 デフォルト設定: なし
BYE の統計	ATA での P-RTP-Stat ヘッダーまたは応答が BYE メッセージに含まれているかどうかを確認します。ヘッダーには、現在のコールの RTP 統計情報が含まれています。ドロップダウンメニューから [はい] または [いいえ] を選択します。 デフォルト設定: あり P-RTP-Stat ヘッダーの形式は次のとおりです。 P-RTP-Stat: PS=<パケット送信>, OS=<オクテット送信>, PR=<パケット Recd>, OR=<オクテット Recd>, PL=<パケットが失われた>, JI=<ジッター>, LA=<ミリ秒の往復遅延>, DU=<通話時間を秒で>

SDP ペイロードタイプ

表 11: SDP ペイロード

フィールド	説明
NSE 動的ペイロード	NSE 動的ペイロードのタイプ有効範囲は 96-127 です。 デフォルト設定: 100
[AVT動的ペイロード (AVT Dynamic Payload)]	AVT 動的ペイロードのタイプ。有効範囲は 96-127 です。 デフォルト設定: 101
[INFOREQ動的ペイロード (INFOREQ Dynamic Payload)]	INFOREQ 動的ペイロードのタイプ。 デフォルト設定: 空白
G726r32 動的ペイロード	G726r32 動的ペイロードのタイプ デフォルト設定: 2
G729b 動的ペイロード	G.729b 動的ペイロードのタイプ有効範囲は 96-127 です。 デフォルト設定: 99
EncapRTP 動的ペイロード	EncapRTP 動的ペイロードのタイプ デフォルト設定: 112
RTP-開始-ループバックの動的ペイロード	RTP-開始-ループバックの動的ペイロードタイプ。 デフォルト設定: 113
RTP-開始-ループバックコーデック	RTP-開始-ループバックコーデック。次のいずれかを選択します。(G711u、G711a、G726-32、G729a) デフォルト設定: G711u
NSE コーデック名	SDP で使用される NSE コーデック名。 デフォルト設定: NSE
[AVTコーデック名 (AVT Codec Name)]	SDP で使用される AVT コーデックの名前。 デフォルト設定: telephone-event
[G711uコーデック名 (G711u Codec Name)]	SDP で使用される G.711u コーデックの名前。 デフォルト設定: PCMU

フィールド	説明
[G711aコーデック名 (G711a Codec Name)]	SDP で使用される G.711a コーデックの名前。 デフォルト設定: PCMA
G726r32 コーデック名	SDP で使用される G.726-32 コーデックの名前。 デフォルト設定: G726-32
[G729aコーデック名 (G729a Codec Name)]	SDP で使用される G.729a コーデックの名前。 デフォルト設定: G729a
[G729bコーデック名 (G729b Codec Name)]	SDP で使用される G.729b コーデックの名前。 デフォルト設定: G729ab
EncapRTP コーデック名	SDP で使用される EncapRTP コーデック名。 デフォルト設定: encaprtп

NAT サポートパラメータ

表 12: NAT サポートパラメータ

フィールド	説明
受信 VIA の処理 (Handle VIA received)	はいを選択すると、ATA は VIA ヘッダーで受信したパラメータを処理します。サーバは、そのリクエストのいずれかの応答にこの値を挿入します。いいえを選択した場合、パラメータは無視されます。 デフォルト設定: なし
VIA rport の処理 (Handle VIA rport)	はいを選択すると、ATA は VIA ヘッダーのレポートパラメータを処理します。この値は、サーバによって、そのリクエストのいずれかへの応答に挿入されます。いいえを選択した場合、パラメータは無視されます。 デフォルト設定: なし
受信 VIA の挿入 (Insert VIA received)	received-from IP 値と VIA sent-by IP 値が異なる場合に、SIP 応答の VIA ヘッダーに受信パラメータを挿入します。 ドロップダウンメニューからはいまたはいいえを選択します。 デフォルト設定: なし

フィールド	説明
VIA rport の挿入 (Insert VIA rport)	received-from IP 値と VIA sent-by IP 値が異なる場合に、SIP 応答の VIA ヘッダーにパラメータを挿入します。 ドロップダウンメニューからは はい または いいえ を選択します。 デフォルト設定: なし
[VIAアドレスの置換 (Substitute VIA Addr)]	ユーザが VIA ヘッダーで NAT-mapped IP:port 値を使用できるようにします。ドロップダウンメニューから [はい] または [いいえ] を選択します。 デフォルト設定: なし
[送信元ポートへの応答の送信 (Send Resp To Src Port)]	VIA sent-by ポートの代わりに要求送信元ポートに応答を送信します。 ドロップダウンメニューからは はい または いいえ を選択します。 デフォルト設定: なし
[STUN有効 (STUN Enable)]	STUN を使用して NAT マッピングを検出できるようにします。 ドロップダウンメニューからは はい または いいえ を選択します。 デフォルト設定: なし
[STUNテスト有効 (STUN Test Enable)]	[STUN有効 (STUN Enable)] 機能が有効で、有効な STUN サーバが使用できる場合、ATA は電源投入時に NAT タイプの検出を実行します。これには、設定された STUNサーバが含まれ、検出結果は以降すべての REGISTER 要求の警告ヘッダーでレポートされます。ATA で対称 NAT または対称ファイアウォールが検出されると、NAT マッピングが無効になります。 デフォルト設定: なし
[STUNサーバ (STUN Server)]	NAT マッピング検出のために接続する STUN サーバの IP アドレスまたは完全修飾名。 デフォルト設定: 空白

フィールド	説明
[外部IP (EXT IP)]	<p>すべての発信 SIP メッセージで ATA の実際の IP アドレスを置き換える外部 IP アドレス。0.0.0.0 を指定した場合、IP アドレスの置換は行われません。</p> <p>このパラメータを指定すると、ATA では SIP メッセージと SDP の生成時にこの IP アドレスが想定されます。ただし、STUN および VIA の受信したパラメータ処理の結果は、この静的に設定された値を優先します。</p> <p>このオプションでは、インターネットサービスプロバイダーから (1) 静的 IP アドレスを取得し、(2) 対称 NAT メカニズムを使用してエッジデバイスを使用する必要があります。ATA デバイスがエッジデバイスの場合、2 番目の要件が満たされています。</p> <p>デフォルト設定：空白</p>
[外部 RTP ポートの最小値 (EXT RTP Port Min)]	<p>RTP ポートの最小番号の外部ポート マッピング番号。この数値がゼロでない場合、すべての発信 SIP メッセージの RTP ポート番号が外部 RTP ポート範囲の対応するポート値で置き換えられます。</p> <p>デフォルト設定：空白</p>
[NATキープアライブ間隔 (NAT Keep Alive Intvl)]	<p>NAT マッピングのキープアライブ メッセージ間の間隔。</p> <p>デフォルト設定：15</p>
[キープアライブをリダイレクト (Redirect Keep Alive)]	<p>NAT リダイレクトキープアライブメッセージを有効または無効にします。</p> <p>デフォルト設定: なし</p>

プロビジョニング

リモートサーバから ATA を設定するには、**音声 > プロビジョニング** ページからプロファイルとパラメータを設定します。

説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、**送信** をクリックして設定を保存するか、**キャンセル** をクリックして、設定を保存したページを再表示します。

設定プロファイル

表 13: 構成プロファイルの設定項目

フィールド	説明
プロビジョン有効 (Provision Enable)	ファームウェアアップグレード操作とは関係なくすべての再同期操作を制御します。リモートプロビジョニングを有効にするには [はい] を設定します。 デフォルト設定: あり
リセット時の再同期:	パラメータの更新やファームウェアアップグレードによるリブートを除き、リブートのたびに再同期がトリガーされます。 デフォルト設定: あり
再同期ランダム遅延 (Resync Random Delay)	プロビジョニングサーバに接続する前に ATA が待機する最大時間間隔です。この遅延は、次の電源投入時またはリセット後の最初の設定試行時にのみ有効になります。遅延は、0 ~ この値の範囲の擬似乱数です。 このパラメータの単位は 20 秒です。デフォルト値の 2 は、40 秒を表します。このパラメータを 0 に設定すると、この機能は無効になります。 この機能は、多数のデバイスの電源が同時に起動するときの、プロビジョニングサーバの過負荷状態を回避するのに使用します。 デフォルト設定 : 2 (40 秒)
再同期時刻 (HHmm):	デバイスが再同期を試行する時刻。再同期は毎日実行されます。 再同期時刻ランダム遅延 (Resync At Random Delay) デフォルト設定 : 空白
再同期時刻ランダム遅延 (Resync At Random Delay)	再同期時刻 (HHmm) 設定で使用する場合、このパラメータでは、再同期遅延用に使用可能な値の範囲を設定します。システムは、この範囲からランダムに値を選択し、指定された秒数だけ待機してから、再同期を試みます。この機能は、すべての再同期デバイスが 1 日の間に再同期を開始した場合に発生するネットワーク詰まりを回避するために使用されます。 デフォルト設定: 600
定期再同期 (Resync Periodic)	プロビジョニングサーバでの定期的な再同期の時間間隔。サーバで同期が最初に成功した後にのみ関連付けられている再同期タイマーがアクティブになります。このパラメータを 0 に設定すると、定期再同期が無効になります。 デフォルト設定: 3600

フィールド	説明
再同期エラー再試行遅延 (Resync Error Retry Delay)	<p>再同期に失敗した場合に適用される再同期再試行間隔 (秒)。ATA には、プロビジョニングサーバとの前回の同期の試行が失敗した場合にアクティブになるエラー再試行タイマーがあります。ATA は、タイマーが 0 にカウントダウンするまで、サーバへの再接続を待機します。</p> <p>このパラメータは、エラー再試行タイマーに最初にロードされる値です。このパラメータが 0 に設定されている場合は、失敗が試行された後、ATA は即座にプロビジョニングサーバとの同期を再試行します。</p> <p>デフォルト設定: 3600</p>
強制再同期遅延 (Forced Resync Delay)	<p>再同期を実行するまでの待機時間の最大遅延 (秒単位)。回線のいずれかがアクティブな間、ATA は再同期しません。再同期には数秒かかるため、ATA が長時間アイドルになるまで待機してから再同期することをお勧めします。中断することなく通話できるようになります。</p> <p>ATA には、すべての回線がアイドル状態になったときにカウントダウンを開始するタイマーがあります。このパラメータは、カウンタの初期値です。</p> <p>再同期イベントは、このカウンタが 0 になるまで遅延します。</p> <p>デフォルト設定: 14400</p>
SIP からの再同期 (Resync From SIP)	<p>SIP NOTIFY メッセージで再同期をトリガーできます。</p> <p>デフォルト設定: あり</p>
アップグレード試行後の再同期 (Resync After Upgrade Attempt)	<p>ファームウェアアップグレードが試行されるたびに再同期をトリガーします。</p> <p>デフォルト設定: あり</p>
再同期トリガー 1 (Resync Trigger 1) 再同期トリガー 2 (Resync Trigger 2)	<p>設定可能な再同期トリガー条件。これらのパラメータの論理式が TRUE に評価されたときに再同期がトリガーされます。</p> <p>デフォルト設定: 空白</p>
FNF 時の再同期失敗 (Resync Fails On FNF)	<p>プロビジョニングサーバからのファイルが見つからない応答が成功したか再同期に失敗したかを確認します。再同期が失敗すると、エラー再同期タイマーがアクティブになります。</p> <p>デフォルト設定: あり</p>

フィールド	説明
プロファイルルール (Profile Rule)	このパラメータは、プロビジョニング再同期コマンドに評価されるプロファイルスクリプトです。コマンドは、TCP/IP の操作と関連付けられている URL です。TCP/IP 操作には、TFTP、HTTP、または HTTPS を使用できます。 コマンドが指定されていない場合、TFTP が想定され、TFTP サーバのアドレスは DHCP オプション 66 を介して取得されます。URL では、サーバの IP アドレスまたは FQDN のいずれかを指定できます。ファイル名には、ATA MAC アドレスに展開される \$MA などのマクロを含めることができます。 デフォルト設定: /spa\$PSN.cfg
プロファイルルール B (Profile Rule B) プロファイルルール C (Profile Rule C) プロファイルルール D (Profile Rule D)	2 番目、3 番目、4 番目の再同期コマンドと、関連付けられたプロファイル URL を定義します。これらのプロファイルスクリプトは、プライマリ プロファイルルールの再同期操作が完了した後に順番に実行されます。再同期がトリガーされ、プロファイルルールが空の場合でも、プロファイルルール B、C、および D は評価されて実行されます。 デフォルト設定: 空白
使用する DHCP オプション (DHCP Option To Use)	ファームウェアおよびプロファイルを取得するために使用される、コマンドで区切られた DHCP オプション。 デフォルト設定: 66.160.159.150
トランスポートプロトコル (Transport Protocol)	トランスポートプロトコルは、ファームウェアとプロファイルを取得します。[なし] を選択すると、TFTP が想定され、TFTP サーバの IP アドレスが DHCP サーバから取得されます。 デフォルト設定: [https]
ログ要求メッセージ (Log Request Msg)	このパラメータには、再同期の試行開始時に syslog サーバに送信されるメッセージが含まれます。 デフォルト設定は \$PN \$MAC -- 再同期リクエスト \$SCHEME://\$SERVIP:\$PORT\$PATH です。
ログ成功メッセージ (Log Success Msg)	再同期の試行が正常に完了した時点で発行される Syslog メッセージ。 デフォルト設定は \$PN \$MAC -- 成功した再同期 \$SCHEME://\$SERVIP:\$PORT\$PATH です。
ログ失敗メッセージ (Log Failure Msg)	再同期の試行が失敗した後に発行される Syslog メッセージ。 デフォルト設定は \$PN \$MAC -- Resync failed: \$ERR です。

フィールド	説明
レポートルール (Report Rule)	<p>設定レポートが送信されるターゲット URL。このパラメータは、Profile_Rule パラメータと同じ構文を使用し、関連付けられた URL を使用して TCP/IP コマンドに解決されます。</p> <p>認証された SIP NOTIFY メッセージに応答して、次のイベントによって設定レポートが生成されます。レポートは、すべてのデバイスパラメータの名前と値を含む XML ファイルです。</p> <p>このパラメータには、必要に応じて、暗号キーを含めることができます。次に例を示します。</p> <pre>[--key \$K] tftp://ps.callhome.net/\$MA/rep.xml.enc</pre> <p>デフォルト設定：空白</p>

ファームウェアアップグレード

表 14: ファームウェアアップグレード設定

フィールド	説明
アップグレードの有効化 (Upgrade Enable)	<p>ファームウェアアップグレード操作が再同期アクションとは無関係に発生するかを決定します。</p> <p>デフォルト設定: あり</p>
アップグレードエラー再試行遅延 (Upgrade Error Retry Delay)	<p>アップグレードが失敗した場合のアップグレードの再試行間隔 (秒単位)。ATA には、ファームウェアアップグレードが失敗した後にアクティブになるファームウェアアップグレードエラータイマーがあります。タイマーは、このパラメータの値で初期化されます。このタイマーが 0 までカウントダウンすると、次のファームウェアアップグレードが試行されません。</p> <p>デフォルト設定: 3600</p>
ダウングレードの改訂数制限。	<p>ファームウェアのアップグレードまたはダウングレード時に、許容可能なバージョン番号の下限値を適用します。ATA は、このパラメータ以上のファームウェアバージョンがない限り、ファームウェアアップグレード操作を完了しません。</p> <p>デフォルト設定：空白</p>
アップグレードルール (Upgrade Rule)	<p>このパラメータは、Profile_Rule と同じ構文をもつ、ファームウェアアップグレードのスクリプトです。アップグレードの条件と、関連するファームウェアの URL を定義します。</p> <p>デフォルト設定：空白</p>

フィールド	説明
ログアップグレード要求メッセージ (Log Upgrade Request Msg)	ファームウェアアップグレード試行の開始時に発行される Syslog メッセージ。 デフォルト設定は \$PN \$MAC -- Requesting upgrade \$SCHEME://\$SERVIP:\$PORT\$PATH です。
ログアップグレード成功メッセージ (Log Upgrade Success Msg)	ファームウェアアップグレード試行が正常に完了した後に発行される syslog メッセージ。 デフォルト設定は \$PN \$MAC -- Successful upgrade \$SCHEME://\$SERVIP:\$PORT\$PATH -- \$ERR です。
ログアップグレード失敗メッセージ (Log Upgrade Failure Msg)	失敗したファームウェアアップグレード試行の後に発行される syslog メッセージ。 デフォルト設定は \$PN \$MAC -- Upgrade failed: \$ERR です。

CA 設定

表 15: CA 設定

フィールド	説明
カスタム CA URL	カスタム認証局 (CA) の証明書のファイルの場所を URL で指定します。サーバの IP アドレスまたは FQDN のいずれかを指定できます。ファイル名には、ATA MAC アドレスに展開される \$MA などのマクロを含めることができます。 デフォルト設定：空白

汎用パラメータ

表 16: 汎用設定

フィールド	説明
GPP A ~ GPP P	汎用プロビジョニングパラメータ。これらのパラメータは、プロビジョニングとアップグレードのルールで変数として使用できます。\$GPP_A など、'\$' の文字を含む変数名を付加することにより参照されます。 デフォルト設定：空白

地域

音声 > 地域 ページから、適切な地域設定でシステムをローカライズします。

説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

呼出音、リズム、およびトーンスクリプト

呼出音とトーンパターンを定義するために、ATA はスクリプトの概念を使用します。次のセクションでは、パターンスクリプト (CadScripts)、周波数スクリプト (FreqScripts)、およびトーンスクリプト (ToneScripts) の作成方法について説明します。

CadScript

信号のパターンパラメータを指定する最大 127 文字までのミニスクリプト。

シンタックス : S1[;S2]。次の意味があります。

$S_i = D_i(\text{oni}, 1/\text{offi}, 1[\text{,oni}, 2/\text{offi}, 2[\text{,oni}, 3/\text{offi}, 3[\text{,oni}, 4/\text{offi}, 4[\text{,oni}, 5/\text{offi}, 5[\text{,oni}, 6/\text{offi}, 6]]]])$ で、セクションとして知られています。oni,j と offi,j は、セグメントの秒単位の on/off 継続時間で、i = 1 または 2、j = 1 から 6 です。Di は、セクションの合計継続時間 (秒単位) です。すべての継続時間には、1 ミリ秒単位の精度を実現するため、小数点以下第 3 位まで含めることができます。ワイルドカード文字 "*" は無期限を意味します。セクション内のセグメントは順番に実行され、合計時間が実行されるまで繰り返されます。

例 1: 60 (2/4)

Number of Cadence Sections = 1

Cadence Section 1: Section Length = 60 s

Number of Segments = 1

Segment 1: On=2s, Off=4s

Total Ring Length = 60s

例 2 : 特殊呼出音 (短、短、短、長) : 60(2/2,2/2,2/2,1/4)

Number of Cadence Sections = 1

Cadence Section 1: Section Length = 60s

Number of Segments = 4

Segment 1: On=0.2s, Off=0.2s

Segment 2: On=0.2s, Off=0.2s

Segment 3: On=0.2s, Off=0.2s

Segment 4: On=1.0s, Off=4.0s

Total Ring Length = 60s

FreqScript

トーンの周波数とレベルパラメータを指定する最大127文字のミニスクリプト。

シンタックス: F1@L1[,F2@L2[,F3@L3[,F4@L4[,F5@L5[,F6@L6]]]]

F1~F6は、周波数(符号なし整数のみ)の周波数(符号なし整数のみ)およびL1:L6値は、dBm単位で対応するレベルです(最大1つの小数点以下)。コンマの前後に空白は使用できません、推奨されません。

例 1: コール ウェイティング トーン: 440@-10

Number of Frequencies = 1

Frequency 1 = 440 Hz at -10 dBm

例 2: ダイヤルトーン: 350 @-19440 @-19

Number of Frequencies = 2

Frequency 1 = 350 Hz at -19 dBm

Frequency 2 = 440 Hz at -19 dBm

ToneScript

通話進行トーンの周波数とレベル、およびケイデンスパラメータを指定する最大127文字のミニスクリプト。127文字まで含めることができます。

シンタックス: ToneScript;Z1[;Z2]

セクションZ1はCadScriptのS1セクションに類似していますが、各on/offセグメントの後に、周波数コンポーネントパラメータ Z1 = D1(oni,1/offi,1/fi,1[,oni,2/offi,2/fi,2[,oni,3/offi,3/fi,3[,oni,4/offi,4/fi,4[,oni,5/offi,5/fi,5[,oni,6/offi,6/fi,6]]]]]), where $f_{i,j} = n1[+n2]+n3[+n4[+n5[+n6]]]$ および $1 < n_k < 6$ は、FreqScriptで指定された周波数成分のどれがそのセグメントで使用されているかを示します。セグメントで複数の周波数成分が使用されている場合、成分は合計されます。

例 1—ダイヤルトーン: 350@-19,440@-19;10(*0/1+2)

Number of Frequencies = 2

Frequency 1 = 350 Hz at -19 dBm

Frequency 2 = 440 Hz at -19 dBm

Number of Cadence Sections = 1

Cadence Section 1: Section Length = 10 s

Number of Segments = 1

Segment 1: On=forever, with Frequencies 1 and 2

Total Tone Length = 10s

例 2—Stutter tone: 350@-19,440@-19;2(.1/1/1+2);10(*0/1+2)

Number of Frequencies = 2

Frequency 1 = 350 Hz at -19 dBm

Frequency 2 = 440 Hz at -19 dBm

Number of Cadence Sections = 2

Cadence Section 1: Section Length = 2s

Number of Segments = 1

Segment 1: On=0.1s, Off=0.1s with Frequencies 1 and 2

Cadence Section 2: Section Length = 10s

Number of Segments = 1

Segment 1: On=forever, with Frequencies 1 and 2

Total Tone Length = 12s

コールプログレストーン

表 17: コールプログレス設定

フィールド	説明
[ダイヤルトーン (Dial Tone)]	電話番号の入力が求められます。リオーダー音は、<ダイヤルトーン> またはその代わりとなるものがタイムアウトすると自動的に再生されます。 デフォルト設定: 350@-19,440@-19;10(*0/1+2)
2 つ目のダイヤルトーン	3 者通話にダイヤルする場合は、ダイヤルトーンの代わりに使用します。 デフォルト設定: 420@-19,520@-19;10(*0/1+2)
[外部ダイヤルトーン (Outside Dial Tone)]	ダイヤルトーンの代わり。内線番号とは対照的に、外部の電話番号を入力するよう促されます。ダイヤルプランにコンマ文字を使用すると、そのことがトリガーされます。 デフォルト設定: 420@-16;10(*0/1)
[プロンプトトーン (Prompt Tone)]	コール転送電話番号を入力するように促されます。 デフォルト設定: 520@-19,620@-19;10(*0/1+2)
[ビジートーン (Busy Tone)]	発信コールで 486 RSC が受信されると再生されます。 デフォルト設定: 480@-19,620@-19;10(.5/.5/1+2)

フィールド	説明
[リオーダー音 (Reorder Tone)]	<p>発信コールが失敗した場合、または相手先が確立されたコール中に電話を切った後に再生されます。リオーダー音は、<ダイヤルトーン> またはその代わりとなるものがタイムアウトすると自動的に再生されます。</p> <p>デフォルト設定: 480@-19,620@-19;10(.25/.25/1+2)</p>
[オフフック警告トーン (Off Hook Warning Tone)]	<p>発信者がクレードルにハンドセットを適切に配置していない場合に再生されます。オフフックの音がタイムアウトすると、オフフックの警告トーンが再生されます。</p> <p>デフォルト設定: 480@-10,620@0;10(.125/.125/1+2)</p>
リングバック トーン	<p>相手先を呼び出しているときの発信コール中に再生されます。</p> <p>デフォルト設定: 440@-19,480@-19;*(2/4/1+2)</p>
リングバック 2 トーン	<p>着信相手が発信 INVITE リクエストに SDP を持たない SIP 182 応答を返信した場合、ATA は、リングバックトーンではなく、このトーンを再生します。</p> <p>デフォルト設定: リズムが 1 秒ずつオン/オフになることを除き、呼出音と同じです。</p> <p>デフォルト設定: 440@-19,480@-19;*(1/1/1+2)</p>
[トーンの確認 (Confirm Tone)]	<p>最後の入力値が受け入れられたことを通知する短いトーン。</p> <p>デフォルトの設定: 600@-16;1(.25/.25/1)</p>
SIT1 トーン	<p>発信者が発信コールを発信するときにエラーが発生すると、再発注トーンの代わりになります。このトーンをトリガーするための RSC は、SIP 画面上で設定できます。</p> <p>デフォルト設定: 985@-16,1428@-16,1777@-16;20(.380/0/1,.380/0/2,.380/0/3,0/4/0)</p>
SIT2 トーン	<p>発信者が発信コールを発信するときにエラーが発生すると、再発注トーンの代わりになります。このトーンをトリガーするための RSC は、SIP 画面上で設定できます。</p> <p>デフォルト設定: 914@-16,1371@-16,1777@-16;20(.274/0/1,.274/0/2,.380/0/3,0/4/0)</p>
SIT3 トーン	<p>発信者が発信コールを発信するときにエラーが発生すると、再発注トーンの代わりになります。このトーンをトリガーするための RSC は、SIP 画面上で設定できます。</p> <p>デフォルトの設定: 914@-16,1371@-16,1777@-16;20(.380/0/1,.380/0/2,.380/0/3,0/4/0)</p>

フィールド	説明
SIT4 トーン	<p>発信者が発信コールを発信するときにエラーが発生すると、再発注トーンの代わりになります。このトーンをトリガーするための RSC は、SIP 画面上で設定できます。</p> <p>デフォルト設定: 985@-16,1371@-16,1777@-16;20(.380/0/1,,274/0/2,,380/0/3,0/4/0)</p>
[MWIダイヤルトーン (MWI Dial Tone)]	<p>発信者のメールボックスに未開封メッセージがある場合に、ダイヤルトーンの代わりに再生されます。</p> <p>デフォルト設定: 350@-19,440@-19;2(.1/.1/1+2);10(*0/1+2)</p>
[Cfwdダイヤルトーン (Cfwd Dial Tone)]	<p>すべてのコールが転送されたときに再生されます。</p> <p>デフォルト設定: 350@-19,440@-19;2(.2/.2/1+2);10(*0/1+2)</p>
[保留音 (Holding Tone)]	<p>相手先がコールを保留にしたことをローカル発信者に通知します。</p> <p>デフォルト設定: 600@-19;*(.1/.1/1,,1/.1/1,,1/9.5/1)</p>
[会議トーン (Conference Tone)]	<p>3 者間の電話会議が進行中の場合に、すべての当事者向けに再生されます。</p> <p>デフォルト設定: 350@-19;20(.1/.1/1,,1/9.7/1)</p>
[セキュアコール通知トーン (Secure Call Indication Tone)]	<p>コールが正常にセキュア モードに切り替えられたときに再生されます。会話に干渉しないように、30 秒未満の短時間わたって 19 dBm 未満の低いレベルでのみ再生する必要があります。</p> <p>デフォルト設定: 397@-19,507@-19;15(0/2/0,,2/.1/1,,1/2.1/2)</p>
機能呼び出しトーン	<p>機能が実装されているときに再生されます。</p> <p>デフォルト設定: 350@-16;*(.1/.1/1)</p>
コールリマインダートーン	<p>ホールディングトーンは、保留中のコールを知らせるために、アクティブコール中に電話機のポートで再生されます。</p> <p>デフォルト設定: 空白</p>

特殊呼び出し音パターン

表 18: 固有呼び出し音設定

フィールド	説明
Ring1 リズム	特殊呼び出し音のパターン スクリプト 1。 デフォルト設定: 60(2/4)
Ring2 リズム	特殊呼び出し音のパターン スクリプト 2。 デフォルト設定: 60(.8/.4,.8/4)
Ring3 リズム	特殊呼び出し音のパターン スクリプト 3。 デフォルトの設定: 60 (.4/.2,.4/.2,.8/4)
Ring4 リズム	特殊呼び出し音のパターン スクリプト 4。 デフォルトの設定: 60 (3/2, 1/. 2, 3/4)
Ring5 リズム	特殊呼び出し音のパターン スクリプト 5。 デフォルト設定: 1 (.5/.5 5)
Ring6 リズム	特殊呼び出し音のパターン スクリプト 6。 デフォルト設定: 60 (.2/.4,.2/.4,.2/4)
Ring7 リズム	特殊呼び出し音のパターン スクリプト 7。 デフォルト設定: 60 (4/2, 4/4, 4/4)
Ring8 リズム	特殊呼び出し音のパターン スクリプト 8。 デフォルト設定: 60(0.25/9.75)

特殊キャッチホン呼び出し音パターン

表 19: 特殊キャッチホン呼び出し音

フィールド	説明
CWT1 パターン	特殊 CWT 1 のパターン スクリプト。 デフォルトの設定: *(. 3/9.7)
CWT2 パターン	特殊 CWT 2 のパターン スクリプト。 デフォルトの設定: 30(.1/.1, .1/9.7)

フィールド	説明
CWT3 パターン	特殊 CWT 3 のパターン スクリプト。 デフォルトの設定: 30(.1/.1, .1/.1, .1/9.7)
CWT4 パターン	特殊 CWT 4 のパターン スクリプト。 デフォルトの設定: 30(.1/.1, .3/.1, .1/9.3)
CWT5 パターン	特殊 CWT 5 のパターン スクリプト。 デフォルト設定: 1 (.5/.5 5)
CWT6 パターン	特殊 CWT 6 のパターン スクリプト。 デフォルトの設定: 30(.1/.1,.3/.2,.3/9.1)
CWT7 パターン	特殊 CWT 7 のパターン スクリプト。 デフォルトの設定: 30(.3/.1,.3/.1,.1/9.1)
CWT8 パターン	特殊 CWT 8 のパターン スクリプト。 デフォルト設定: 2.3(.3/2)

特殊呼び出し音パターン/CWTパターン名

表 20: 特殊呼び出し音パターン/CWTパターン

フィールド	説明
呼出音1 の名前	着信コール用の特殊な呼出音/CWT1を選択するには、INVITEのアラート情報ヘッダーに名前を入力します。 デフォルト設定: ベルコア1
呼出音2 の名前	着信コール用の特殊な呼出音/CWT2を選択するには、INVITEのアラート情報ヘッダーに名前を入力します。 デフォルト設定: ベルコア2
呼出音3 の名前	着信コール用の特殊な呼出音/CWT3を選択するには、INVITEのアラート情報ヘッダーに名前を入力します。 デフォルト設定: ベルコア-r3
呼出音4 の名前	着信コール用の特殊な呼出音/CWT4を選択するには、INVITEのアラート情報ヘッダーに名前を入力します。 デフォルト設定: ベルコア-r4

フィールド	説明
呼出音5 の名前	着信コール用の特殊な呼出音/CWT5を選択するには、INVITEのアラート情報ヘッダーに名前を入力します。 デフォルト設定: ベルコア-r5
呼出音6 の名前	着信コール用の特殊な呼出音/CWT6を選択するには、INVITEのアラート情報ヘッダーに名前を入力します。 デフォルト設定: ベルコア-r6
呼出音7 の名前	着信コール用の特殊な呼出音/CWT7を選択するには、INVITEのアラート情報ヘッダーに名前を入力します。 デフォルト設定: ベルコア-r7
呼出音8 の名前	着信コール用の特殊な呼出音/CWT8を選択するには、INVITEのアラート情報ヘッダーに名前を入力します。 デフォルト設定: ベルコア-r8

呼出音とコール ウェイティング トーンの仕様

重要: 着信音とコール待機トーンは、すべての電話機で同じように動作するわけではありません。呼出音を設定する場合は、次の推奨事項を検討してください。

- デフォルトの呼出音、リング周波数、および着信電圧で開始します。
- 呼出音が正しく鳴っていない場合、または電話機がコールしない場合は、次の設定を変更します。
 - 呼出音ウェーブフォーム: Sinusoid
 - 呼び出し周波数: 25
 - リング電圧: 80

表 21: 呼出音とコール待機トーン

フィールド	説明
リング波形	呼び出し信号の波形です。正弦波と台形波が選べます。 デフォルト設定: 台形波
呼び出し周波数 (Ring Frequency)	呼び出し信号の周波数です。有効な値は 15 ~ 50 (Hz) です。 デフォルト設定: 20

フィールド	説明
リング電圧	呼び出し電圧選択肢は 30~90 (V) です。 デフォルト設定: 85
CWT 周波数	コール待機トーンの頻度スクリプト。すべての特有のCWTはこのトーンに基づいています。 デフォルト設定: 440@-10
同期リング	[はい] に設定されている場合、ATA が呼び出されると、すべての回線が同時に鳴ります (通常の PSTN 回線と同様)。1つの応答があると、他の回線が停止します。 デフォルト設定: なし

制御タイマーの値 (秒)

表 22: 制御タイマーの値

フィールド	説明
Flash Timer Min をフックします。	オフフックがフックフラッシュとして認定される前の最小オンフック時間です。この値よりも小さいと、オンフックイベントは無視されます。範囲: 0.1~0.4 秒 デフォルト設定: 0.1
フラッシュタイマーをフックします。	オフフックがフックフラッシュとして認定される前の最大オンフック時間です。この値よりも大きいと、オンフックイベントは オンフック (フック-flash イベントなし) として扱われます。 範囲: 0.4~1.6 秒 デフォルト設定: 0.9
呼び出し先のオンフック遅延。	ATA が現在の着信コールを切断するまでの時間は、電話機がオンフックである必要があります。発信コールには適用されません。 範囲: 0~255 秒 デフォルト設定: 0
リオーダーの遅延 (Reorder Delay)	遠端側が切断されてからリオーダー音が再生されるまでの遅延。0=すぐに再生、inf=再生しない。範囲: 0~255 秒 デフォルト設定: 5

フィールド	説明
コールバック期限切れ (Call Back Expires)	コールバック有効化の秒単位の有効期限。範囲：0～65535 秒 デフォルト設定: 1800
コールバック再試行間隔 (Call Back Retry Intvl)	秒単位のコールバック再試行間隔。範囲：0～255 秒 デフォルト設定：30
コールバック遅延 (Call Back Delay)	最初の SIP 18x 応答を受信してから、リモートエンドが呼び出し中であることを宣言するまでの遅延。話中応答がこの時間内に受信された場合は、ATA ではコールで障害が発生していると判断され、再試行が続きます。 デフォルト設定: 0.5
VMWI Refresh Intvl	デバイスに対する VMWI 更新間隔を指定します。 デフォルト設定：0
桁間ロング タイマー (Interdigit Long Timer)	ダイヤル中に番号を入力する間隔の長い方のタイムアウト。桁間タイマーの値は、ダイヤル時のデフォルトとして使用されます。ダイヤルプラン内のすべての有効な一致シーケンスのダイヤリングが完了していない場合、1つの番号が入力されるたびに Interdigit_Long_Timer が使用されます。範囲：0～64 秒 デフォルト設定：10
桁間ショート タイマー (Interdigit Short Timer)	ダイヤル中に番号を入力する間隔の短い方のタイムアウト。少なくとも1つの一致シーケンスのダイヤリングが完了しているが、さらにダイヤルされた番号がまだ完了していない他のシーケンスと一致する場合、1つの番号が入力されるたびに Interdigit_Short_Timer が使用されます。範囲：0～64 秒 デフォルト設定：3

フィールド	説明
CPC 遅延。	<p>ATA が、発信者の取り付けられた装置にチップとリング間の電圧の取り外しを開始した後、発信者が切断するまでの遅延時間 (秒単位)。範囲は 0~255 秒です。通常、この機能は、発信者が接続されている場合 (リモートエンドが応答した)、または切断されたとき (リモートエンドが切断した場合)、この機能を発信者用に使用しないようにする必要があります (つまり、接続およびアイドル状態について同じ極性を使用する場合)。</p> <p>CPC が有効になっていない場合、再オーダートーンは設定可能な遅延の後に再生されます。CPC が有効になっている場合、チップとリング間の電圧が回復するときにダイヤルトーンが再生されます。解決は 1 秒です。</p> <p>デフォルト設定: 2</p>
CPC の持続時間。	<p>発信者が電話を切り、発信した後に、先端対呼出電圧が削除された秒単位の時間。その後、先端対呼出電圧が復元され、接続された装置がまだオフフックになっている場合は、ダイヤルトーンが適用されます。この値が 0 に設定されている場合、CPC が無効になります。範囲: 0~1.000 秒。解決は 0.001 秒です。</p> <p>デフォルト設定: 0.5</p>

特定業種向けサービス アクティベーションコード

特定業種向けサービスアクティベーションコードは、ダイヤルプランに自動的に追加されます。ダイヤルプランに含める必要はありませんが、それらが含まれていても害はありません。

表 23: 特定業種向けサービス アクティベーションコード

フィールド	説明
コール戻りコード (Call Return Code)	<p>コール戻りコードは、最後の発信者を呼び出します。</p> <p>デフォルト設定: *69</p>
コールリダイヤルコード	<p>リダイヤルする最後の数字を指定します。</p> <p>デフォルト設定: *07</p>
ブラインド転送コード (Blind Transfer Code)	<p>アクティベーションコードの後に指定された内線番号に、アクティブなコールのブラインド転送を開始します。</p> <p>デフォルト設定: *98</p>

フィールド	説明
コールバック アクティベーションコード (Call Back Act Code)	最後の発信コールが話中状態ではない場合にコールバックを開始します。 デフォルト設定: *66
コールバック非アクティベーションコード (Call Back Deact Code)	コールバックをキャンセルします。 デフォルト設定: *86
コールバック 話中アクティベーションコード (Call Back Busy Act Code)	最後の発信コールが使用中の場合は、コールバックを開始します。 デフォルト設定: *05
Cfwd All Act コード (Cfwd All Act Code)	アクティベーションコードの後に指定された内線番号にすべてのコールを転送します。 デフォルト設定: *72
Cfwd All Deact コード (Cfwd All Deact Code)	すべてのコールのコール転送をキャンセルします。 デフォルト設定: *73
Cfwd Busy Act コード (Cfwd Busy Act Code)	アクティベーションコードの後に指定された内線番号に話中のコールを転送します。 デフォルト設定: *90
Cfwd Busy Deact コード (Cfwd Busy Deact Code)	話中コールのコール転送をキャンセルします。 デフォルト設定: *91
Cfwd No Ans Act コード (Cfwd No Ans Act Code)	アクティベーションコードの後に指定された内線番号に無応答コールを転送します。 デフォルト設定: *92
Cfwd No Ans Deact コード (Cfwd No Ans Deact Code)	無応答コールのコール転送をキャンセルします。 デフォルト設定: *93
Cfwd All Act コード (Cfwd All Act Code)	アクティベーションコードを入力した後に指定した番号に、最後の着信または発信コールを転送します。 デフォルト設定: *63
Cfwd Busy Deact コード (Cfwd Busy Deact Code)	最後の着信コールまたは発信コールのコール転送をキャンセルします。 デフォルト設定: *83

フィールド	説明
最後のアクティベーションコードをブロックします。	最後の着信コールをブロックします。 デフォルト設定: *60
最後のアクティベーションコードをブロックします。	最後の着信コールのブロッキングをキャンセルします。 デフォルト設定: *80
最後のアクティベーションコードを受け入れます。	最後のアウトバウンドコールを受け入れます。また、すべてのコールの発信またはコール転送が有効になっている場合に、コールの呼出音をつなげることができます。 デフォルト設定: * 64
最後の非アクティベーションコードを受け入れます。	コードをキャンセルして最後の発信コールを受け入れます。 デフォルト設定: *84
CW Act コード (CW Act Code)	すべてのコールでコール ウェイティングを有効にします。 デフォルト設定: *56
CW Deact コード (CW Deact Code)	すべてのコールでコール ウェイティングを無効にします。 デフォルト設定: *57
CW Per Call Act コード (CW Per Call Act Code)	次のコールのコール ウェイティングを有効にします。 デフォルト設定: *71
CW Per Call Deact コード (CW Per Call Deact Code)	次のコールのコール ウェイティングを無効にします。 デフォルト設定: *70
ブロック CID アクティベーションコード (Block CID Act Code)	すべての発信コールの発信者 ID をブロックします。 デフォルト設定: *67
CID ブロック アクティベーション解除コード (Block CID Deact Cod)	すべての発信コールの発信者 ID ブロックを削除します。 デフォルト設定: *68
Block CID Per Call Act コード (Block CID Per Call Act Code)	次の発信コールの発信者 ID をブロックします。 デフォルト設定: *81
コール単位の CID ブロック非アクティベーションコード (Block CID Per Call Deact Code)	次の着信コールの発信者 ID ブロックを削除します。 デフォルト設定: *82

フィールド	説明
非通知着信ブロック アクティベーションコード (Block ANC Act Code)	すべての匿名コールをブロックします。 デフォルト設定: *77
非通知着信ブロック アクティベーション解除コード (Block ANC Deact Code)	すべての匿名コールのブロックを削除します。 デフォルト設定: *87
DND アクティベーションコード (DND Act Code)	[サイレント (Do Not Disturb)]機能を有効にします。 デフォルト設定: *78
DND 非アクティベーションコード (DND Deact Code)	応答不可機能を無効化します。 デフォルト設定: *79
CID アクティベーションコード (CID Act Code)	発信者 ID の生成を有効にします。 デフォルト設定: *65
DND 非アクティベーションコード (DND Deact Code)	発信者 ID の生成を無効にします。 デフォルト設定: *85
CWCID アクティベーションコード (CWCID Act Code)	コール待機 (発信者 ID 生成) を有効にします。 デフォルト設定: *25
CWCID 非アクティベーションコード (CWCID Act Code)	コール待機 (発信者 ID 生成) を無効にします。 デフォルト設定: *45
Dist Ring Act コード。	固有呼び出し音機能の有効化。 デフォルト設定: *26
Dist Ring Deact コード。	固有呼び出し音機能の無効化。 デフォルト設定: *46
短縮ダイヤルのアクティベーションコード。	短縮ダイヤル番号を割り当てます。 デフォルト設定: *74
ページングコード (Paging Code)	グループ内の他のクライアントのページングに使用されます。 デフォルト設定: *96
全コールのセキュア化アクティベーションコード (Secure All Call Act Code)	すべての発信コールをセキュアにします。 デフォルト設定: *16

フィールド	説明
コールの非セキュア化アクティベーションコード (Secure No Call Act Code)	すべての発信コールをセキュアにしません。 デフォルトの設定: *17
1 コール保護起動のコード	次の発信コールをセキュアにします。(すべての発信コールがデフォルトで安全である場合は、冗長になります)。 デフォルト設定: *18
Secure One Call Deact コード (Secure One Call Deact Code)	次の発信コールがセキュアでなくなります。(デフォルトでは、すべての発信コールが安全でない場合、冗長になります)。 デフォルト設定: *19
会議アクティベーションコード	このコードが指定されている場合は、電話会議用にサードパーティをダイヤルする前に入力する必要があります。会議コールのコードを入力します。 デフォルト設定: 空白
Attn-転送開始アクティベーションコード。	コードが指定されている場合は、通話転送用にサードパーティをダイヤルする前に入力する必要があります。通話転送用のコードを入力します。 デフォルト設定: 空白
モデム回線の切り替えコード。	回線をモデムに切り替えます。モデムのパススルーモードは、このコードをプリダイヤルすることによってのみトリガーできます。 デフォルト設定: *99
FAX 回線の切り替えコード。	回線を Fax 機に切り替えます。 デフォルト設定: #99
メディアループバックコード。	メディアループバックに使用します。 デフォルト設定: *03

フィールド	説明
参照サービスコード (Referral Services Codes)	<p>これらのコードは、アクティブコールを保留にしている、2つ目のダイヤルトーンをリスニングしているときに実行する動作を ATA に指示します。このパラメータには、*98 や *97*98*123 などのように1つ以上の * コードを設定できません。最大長は79文字です。このパラメータは、[フックフラッシュ]ボタンを押すことによってアクティブコールを保留した場合に適用されます。各 * コード (および現在のダイヤルプランに従って有効な後に続くターゲット番号) によって、ATA はサービス * コードの後ろに続くターゲット番号へのブライント転送を実行するようトリガーされます。</p> <p>たとえば、*98をダイヤルすると、ATAは、ユーザがターゲット番号 (通常のダイヤリングとしてダイヤルプランに従ってチェックされた) を入力するまで待機している間に、プロンプト トーンを再生します。完全な番号を入力すると、ATA は、Refer-To Target が *98 target_number と同等な状態で、保留している通話者にブライントREFERを送信します。この機能により、ATA はアプリケーションサーバにコールを渡せるため、コールパークなどの処理をさらに実行できます。</p> <p>* コードは、ATA により内部で処理された他の特定業種向けサービスのいずれとも競合できません。ATA で処理しない対応する *コードは空にできます。</p> <p>デフォルト設定：空白</p>

フィールド	説明
機能ダイヤルサービスコード (Feature Dial Services Codes)	<p>これらのコードは、1つ目または2つ目のダイヤルトーンをリスニングしているときに実行する動作を ATA に指示します。</p> <p>このパラメータには、*72 や *72 *74 *67 *82 などのように、1つ以上の *コードを設定できます。最大長は 79 文字です。このパラメータは、ダイヤルトーン (1つ目または2つ目のダイヤルトーン) がある場合に適用されます。</p> <p>ダイヤルトーンを受信した後、現在のダイヤルプランに従って *コードとターゲット番号を入力します。たとえば、*72 をダイヤルした後、ATA はプロンプトトーンと呼ばれる特殊トーンを再生し、ユーザが有効なターゲット番号を入力するまで待機します。完全な番号を入力すると、ATA は、通常のコールとして INVITE を *72 target_number に送信します。この機能により、プロキシはコール転送 (*72) や発信者 ID のブロック (*67) などの機能を処理できます。</p> <p>* コードは、ATA により内部で処理された他の特定業種向けサービスのいずれとも競合できません。ATA で処理しない対応する *コードを削除できます。</p> <p>パラメータを追加して、*コード (*72'c' *67'p' など) が入力された後に再生するトーンを示すことができます。以下に、許可されるトーンパラメータのリストを示します。(パラメータはスペースなしで、オープンクォートで囲みます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • c : C fwd ダイヤルトーン • d = ダイヤルトーン • m : MWI ダイヤルトーン • o : 外部ダイヤルトーン • p : プロンプト ダイヤルトーン • s = 2 番目のダイヤルトーン • x = トーンなし、x は上記で使用されていない任意の数字 <p>トーンパラメータを指定しない場合、デフォルトでは ATA はプロンプト トーンを再生します。</p> <p>コール転送をキャンセルするには、*73 など、*コードの後に電話番号が続かない場合は、このパラメータにこれを含めないでください。代わりに、ダイヤルプランに *コードを追加し、ATA send INVITE * 73 @....* 73 として通常どおりにダイヤルします。</p> <p>デフォルト設定 : 空白</p>

特定業種向けサービス アナウンス コード

表 24: 特定業種向けサービス アナウンス コード

フィールド	説明
[サービスアナウンス基本番号 (Service Annc Base Number)]	サービスアナウンスの基本番号。 デフォルト設定：空白
[サービスアナウンス内線コード (Service Annc Extension Codes)]	サービスアナウンスの内線番号。 デフォルト設定：空白

発信コール コーデック 選択コード

表 25: 発信コール コーデック 選択コード

フィールド	説明
G711u コードを優先する (Prefer G711u Code)	コールの優先コーデックを G.711u にするには、ダイヤルプレフィックスを使用してください。 デフォルト設定: *017110
G711u コードを強制する (Force G711u Code)	コールのに使用する唯一のコーデックである G.711u を作成するには、ダイヤルプレフィックスを使用します。 デフォルト設定: *027110
G711a コードを優先する (Prefer G711a Code)	コールの優先コーデックを G.711a にするには、ダイヤルプレフィックスを使用してください。 デフォルト設定: *017111
G711a コードを強制する (Force G711a Code)	コールのに使用する唯一のコーデックである G.711a を作成するには、ダイヤルプレフィックスを使用します。 デフォルト設定: *027111
G722 コードを優先する (Prefer G722 Code)	コールの優先コーデックを G.726r32 にするには、ダイヤルプレフィックスを使用してください。 デフォルト設定: *0172632
G722 コードを強制する (Force G722 Code)	コールのに使用する唯一のコーデックである G.726r32 を作成するには、ダイヤルプレフィックスを使用します。 デフォルト設定: *0272632

フィールド	説明
G729a コードを優先する (Prefer G729a Code)	コールの優先コーデックを G.729a にするには、ダイヤルプレフィックスを使用してください。 デフォルト設定: *01729
G711a コードを強制する (Force G711a Code)	コールのに使用する唯一のコーデックである G.729a を作成するには、ダイヤルプレフィックスを使用します。 デフォルト設定: *02729

その他

表 26: その他の設定

フィールド	説明
FXS ポート インピーダンス	電話ポートの電気的なインピーダンスを設定します。 選択肢は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 600 • 900 • 600+2.16uF • 900+2.16uF • 220+850 120nF • 220+820 115nF • 200+600 100nF デフォルト設定: 600
FXS ポートの入力ゲイン:	DB での入力ゲイン (小数点以下 3 桁まで)。範囲は 6.000 ~ 12.000 です。 デフォルト設定: -3
FXS ポート出力ゲイン:	DB での出力ゲイン (小数点以下 3 桁まで)。範囲は 6.000 ~ 12.000 です。コールプログレストーンと DTMF 再生レベルは、FXS ポートの出力ゲインパラメータの影響を受けません。 デフォルト設定: -3
DTMF 再生レベル:	ローカルの DTMF 再生レベル (dBm) (小数点以下 1 桁まで)。 デフォルト設定: -16.0

フィールド	説明
DTMF ひねり:	2つのトーン周波数の差を得ることができます。 デフォルト設定: 2
DTMF 再生の長さ:	ローカルの DTMF 再生の継続時間をミリ秒単位で入力します。 デフォルト設定: 1
ABCD の検出:	DTMF ABCD のローカル検出を有効にするには、 [はい] を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。デフォルト設定: あり DTMFTxメソッドが情報の場合、この設定は効果がありません。ABCD は、この設定に関係なく常に OOB に送信されます。
再生の ABCD:	OOB DTMF ABCD のローカル再生を有効にするには、 [はい] を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。デフォルト設定: あり

フィールド	説明
発信者 ID 方式:	<p>選択肢は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ベルコア (北米、中国): CID、CIDCW、および VMWI。最初の呼出音より後に送信される FSK (最初の呼出音の後に送信された ETSI FSK と同じ) (極性反転または DTAS なし)。 • DTMF (フィンランド、スウェーデン): CID のみ極性反転 (DTAS なし) の後、最初の呼出音の前に送信された DTMF。 • DTMF (デンマーク): CID のみ極性反転と DTAS のない最初の呼出音の前に DTMF が送信されます。 • ETSI DTMF: CID のみ DTAS の後、最初の呼出音の前に送信された DTMF。 • PR との ETSI DTMF: CID のみ極性反転 (および DTAS) の後、最初の呼出音の前に送信された DTMF。 • 呼出音の後の ETSI DTMF: CID のみ最初の呼出音 (極性反転または DTAS なし) の後に送られた DTMF。 • ETSI FSK: CID、CIDCW、VMWI。DTAS (極性反転なし) の後、最初の呼出音の前に送信された FSK。CIDCW の DTAS の後、デバイスからの ACK 待機。 • PR との ETSI FSK (英国): CID、CIDCW、および VMWI。FSK は、極性反転 (および DTAS) の後、最初の呼出音の前に送信されます。CIDCW の DTAS の後、デバイスからの ACK 待機。極性反転は、装置がオンフックの場合にのみ適用されます。 • PR との DTMF (デンマーク): CID のみ極性反転 (DTAS なし) の後、最初の呼出音の前に送信された DTMF。 <p>デフォルト設定: ベルコア (米国、中国)</p>
FXS ポートの電力制限:	<p>選択できるのは 1~8 です。デフォルト設定: 3</p>
発信者 ID FSK 標準規格:	<p>ATA は、発信者 ID 生成の bell 202 および v. 23 規格をサポートしています。デフォルト設定: bell 202</p>
機能呼び出しメソッド:	<p>使用する方法、デフォルト、またはスウェーデンのデフォルトを選択します。デフォルト設定: デフォルト</p>

回線 1 と回線 2 (電話 1 と電話 2) の設定

電話 1 および電話 2 のポートを介したコールの設定を設定するには、**音声 > 回線 1** ページおよび**音声 > 回線 2** ページから行います。

説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、**送信**をクリックして設定を保存するか、**キャンセル**をクリックして、設定を保存したページを再表示します。



(注) 設定プロファイルでは、FXS パラメータに、設定を受信するポートを識別するための適切な数字が含まれている必要があります。

全般

表 27: 全般設定

フィールド	説明
[回線の有効化 (Line Enable)]	サービスに対してこの回線を有効にするには、 はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: あり

ストリーミング オーディオ サーバ (SAS)

表 28: ストリーミング オーディオ サーバ設定

フィールド	説明
SAS 有効化	ストリーミング音源として回線の使用を有効にするには、 [はい] を選択します。または、 [いいえ] を選択します。有効になると、その回線は発信コールに使用できなくなります。代わりに、着信コールに自動応答し、音声 RTP パケットを発信者に転送します。 デフォルト設定: なし
SAS DLG 更新インターバル	0 以外の値は、ストリーミング音声サーバがセッションの更新 (SIP re INVITE) メッセージを送信し、接続がアクティブであるかどうかを確認する間隔です。発信者が更新メッセージに応答しない場合、ATA はこのコールを SIP BYE メッセージを使用して終了します。範囲は 0~255 秒です (0 は、セッションの更新が無効であることを示します)。 デフォルト設定: 30

フィールド	説明
SAS 着信 RTP シンク	<p>このパラメータは、SAS 回線が送信専用デバイスとして宣言され、オーディオをストリームアウトしないようにクライアントに通知する場合に、着信 RTP を再生しないデバイスに対して機能します。このパラメータは、クライアントからのインバウンド INVITE に対する 200 の応答の SDP 内の SAS 回線で使用する RTP シンクの FQDN または IP アドレスです。このファイルは、「c=」回線に表示され、ポート番号は SDP の m= 回線に表示されます。</p> <p>この値が指定されていない場合、または 0 の場合は、c: 0.0.0.0、a=sendonly が SDP 内で使用され、この SAS 回線に RTP を送信しないよう SAS クライアントに指示します。0 以外の値が指定されている場合、a=sendrecv および SAS クライアントは、指定されたアドレスに音声を送信します。</p> <p>特殊なケース: 値が \$IP の場合、SAS 回線の独自の IP アドレスが c=回線と a=sendrecv に使用されます。この場合、SAS クライアントは RTP パケットを SAS 回線にストリーム転送します。</p> <p>デフォルト設定: 空白</p>

NAT 設定

表 29: NAT 設定

フィールド	説明
[NATマッピング有効 (NAT Mapping Enable)]	<p>SIPメッセージで外部でマッピングされた IP アドレスと SIP/RTP ポートを使用するには、はいを選択します。それ以外の場合は、いいえを選択します。</p> <p>デフォルト設定: なし</p>
[NATキープアライブ有効 (NAT Keep Alive Enable)]	<p>設定された NAT キープアライブ メッセージを定期的送信するには、はいを選択します。それ以外の場合は、いいえを選択します。</p> <p>デフォルト設定: なし</p>

フィールド	説明
[NATキープアライブメッセージ (NAT Keep Alive Msg)]	現在のNATマッピングを維持するために定期的送信されたキープアライブメッセージを入力します。値が\$NOTIFYの場合、NOTIFYメッセージが送信されます。値が\$REGISTERの場合、連絡先のないREGISTERメッセージが送信されません。 デフォルト設定: \$NOTIFY
[NATキープアライブ宛先 (NAT Keep Alive Dest)]	NATキープアライブメッセージを受信する宛先。値が\$PROXYの場合、メッセージが現在のプロキシサーバ、またはアウトバウンドプロキシサーバに送信されます。 デフォルト設定: \$PROXY

ネットワーク設定

表 30: ネットワーク設定

フィールド	説明
SIP ToS/DiffServ 値	SIPメッセージを伝送するUDP IPパケット内の[TOS/DiffServ]フィールド値。 デフォルト設定: 0x68
SIP Co 値 [0-7]	SIPメッセージのCoS値。有効値は0～7です。 デフォルト設定: 3
[RTP ToS/DiffServ値 (RTP ToS/DiffServ Value)]	RTPデータを伝送するUDP IPパケット内の[ToS/DiffServ]フィールド値。 デフォルト設定: 0xb8
RTP Co 値 [0-7]	RTPデータのCoS値。有効値は0～7です。 デフォルト設定: 6

フィールド	説明
ネットワーク ジッター レベル	<p>ATA でのジッターバッファサイズの調整方法を決定します。ジッターバッファサイズは、動的に調整されます。最小ジッターバッファサイズは、すべてのジッターレベル設定について 30 ミリ秒 (10 ミリ秒 + 現在の RTP フレームサイズ) です。ただし、より高いジッターレベルの場合は、開始ジッターバッファサイズの値が大きくなります。この設定では、最小値に達するまでのジッターバッファサイズの調整速度を制御します。適切な設定 (低、中、高、超高、または極高) を選択します。</p> <p>デフォルト設定: 高</p>
ジッターバッファ調整	<p>この機能を有効にするにははいを選択し、無効にするにはいいえを選択します。</p> <p>デフォルト設定: あり</p>

SIP 設定

表 31: SIP 設定

フィールド	説明
[SIP トランスポート (SIP Transport)]	<p>TCP の選択肢では「配信の保証」が実現されているため、失われたパケットが再送されます。また、TCP は SIP パッケージが送信された順序で受信されることも保証します。このため、TCP は UDP の主な短所を克服しています。また、セキュリティ上の理由で、ほとんどの社内ファイアウォールは UDP ポートをブロックします。TCP を使用すると、インターネット閲覧や e-コマースなどのため新しいポートを開いたり、パケットをドロップしたりする必要がありません。</p>
[SIP ポート (SIP Port)]	<p>SIP メッセージのリスニングおよび送信ポートのポート番号。</p> <p>デフォルト設定: 5060 電話 1 と 5061 の 電話 2</p>
[SIP 100REL 有効 (SIP 100REL Enable)]	<p>暫定応答 (18x) の信頼できる伝送と PRACK 要求の使用のための 100REL SIP 拡張のサポートを有効にするには、はいを選択します。それ以外の場合は、いいえを選択します。</p> <p>デフォルト設定: なし</p>
[外部 SIP ポート (EXT SIP Port)]	<p>外部 SIP ポート番号。</p> <p>デフォルト設定: 空白</p>

フィールド	説明
[再同期-再起動の認証 (Auth Resync-Reboot)]	この機能を有効にすると、ATA は、NOTIFY 再同期リポート (RFC2617) メッセージを受信したときに送信者を認証します。この機能を使用する場合は はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: あり
[SIPプロキシが必要 (SIP Proxy-Require)]	SIP プロキシは、ユーザ エージェントからこのヘッダーを渡されたときに、特定の内線や動作をサポートできます。このフィールドが設定され、プロキシがそれをサポートしない場合、非サポートメッセージで応答します。表示されたフィールドに適切なヘッダーを入力します。 デフォルト設定: 空白
[SIP Remote-Party-ID]	From ヘッダーの代わりに使用する Remote-Party-ID ヘッダーを使用するには、 はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: あり
SIP GUID (グローバル一意識別子)	この機能により、SIP アカウントの登録が制限されます。グローバルに固有の ID は、各 ATA の各回線に対して生成されます。この設定が有効になっている場合、ATA は SIP リクエストの GUID ヘッダーを追加します。GUID は、ユニットが初めて起動し、ユニットが再起動してから再び初期設定にリセットされたときに生成されます。 デフォルト設定: なし
RTP ログインターバル (RTP Log Intvl)	RTP ログの間隔。 デフォルト設定: 0
発信元 IP を制限します。	設定されている場合、ATA は、信頼されていない IP アドレスから SIP ポートに送信されるすべてのパケットを破棄します。設定されているプロキシから解決された IP アドレスと一致しない場合、発信元 IP アドレスは信頼されません (または、使用している発信プロキシが [はい] の場合は発信プロキシ)。 デフォルト設定: なし
Referor BYE 遅延 (Referor Bye Delay)	コール転送の後に古いコール区間を終了するように、通話転送の後に BYE を送信するまで待機する秒数。 デフォルト設定: 4

フィールド	説明
ターゲット参照 BYE 遅延 (Refer Target Bye Delay)	コール転送の後に古いコール区間を終了するように、通話転送の後、参照ターゲットに BYE を送信するまで待機する秒数。 デフォルト設定: 0
Referee BYE 遅延 (Referee Bye Delay)	コール転送の後に古いコール区間を終了するように、通話転送の後、参照者に BYE を送信するまで待機する秒数。 デフォルト設定: 0
参照先ターゲットの連絡先 (Refer-To Target Contact)	参照先のターゲットに問い合わせるには、 はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: なし
スティッキ 183 (Sticky 183)	この機能が有効な場合、ATA は、アウトバウンド INVITE の最初の 183 SIP 応答を受信した後、後続の 180 SIP 応答を無視します。この機能を有効にする場合は はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: なし
INVITE 許可 (Auth INVITE)	有効にする場合、SIP プロキシからの初期の着信 INVITE 要求に認証が必要になります。 デフォルト設定: なし
コール待機中の応答 182。	有効にされている場合、ATA はすでにコール中で回線がオフフックになっている場合、発信者に SIP182 応答を返します。この機能を使用する場合は はい を選択します。 デフォルト設定: なし
RPID と匿名の使用 (Use Anonymous With RPID)	リモートパーティー ID が SIP メッセージで要求されたときに ATA が「匿名」を使用するかどうかを決定します。 デフォルト設定: あり
発信者からローカルアドレスを使用します。	SIP からの SIP メッセージのローカル ATA IP アドレスを使用します。 デフォルト設定: なし
Broadsoft ALTC。	SIP が Broadsoft ALTC であるかどうかを設定します。 オプション: [はい] または [いいえ] デフォルト設定: なし

コール機能の設定

表 32: 通話機能パラメータ

フィールド	説明
[ブラインド在席転送有効 (Blind Attn-Xfer Enable)]	アクティブのコールレグを終了して他のコールレグのブラインド転送を実行することにより、ATA で在席転送操作を実行できるようにします。この機能を無効にした場合、ATA は、アクティブのコールレグと他のコールレグの両方を維持した状態で、他のコールレグを現在のコールレグに参照させることにより、在席転送操作を実行します。この機能を使用する場合は はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: なし
MOH サーバ (MOH Server)	自動応答ストリーミング オーディオ サーバのユーザ ID または URL。ユーザ ID のみが指定されている場合、現在のプロキシまたはアウトバウンドプロキシに接続されます。MOH サーバが指定されていない場合、保留音が無効になります。 デフォルト設定: 空白
切断時転送の構成	会議コールが終了したときに、ATA が転送を実行します。ドロップダウンメニューから はい または いいえ を選択します。 デフォルト設定: あり
[会議ブリッジのURL (Conference Bridge URL)]	この機能は、オーディオをローカルにミキシングするのではなく、n 方向の会議通話用の外部会議ブリッジ(n>2)をサポートします。この機能を使用するには、このパラメータをサーバ名のパラメータに設定します。例: conf@mysefver.com: 12345 または conf (プロキシ値をドメインとして使用します)。 デフォルト設定: 空白
会議ブリッジポート	会議コール参加者の最大数を選択します。範囲は 3 ~ 10 です。 デフォルト設定: 3

フィールド	説明
IP ダイアルの有効化 (Enable URI Dialing)	<p>IP ダイアルを有効または無効にします。IP ダイアルが有効になっている場合、[userid@]をダイヤルします。b:[p ソート]、'@'、'!'、および'!'は「*」を入力することによってダイヤルされ、a, b, c, d は 0 から 255; の範囲でなければなりません。ポートは 255 以上でなければなりません。Port が指定されていない場合は、5060 が使用されます。ポートとユーザ ID はオプションです。ユーザ ID 部分がダイヤルプランのパターンに一致する場合、その部分はダイヤルプランに従って通常の電話番号として解釈されます。ただし、INVITE メッセージは、有効になっている場合でも、発信プロキシに送信されません。</p> <p>デフォルト設定: なし</p>
[緊急番号 (Emergency Number)]	<p>コマンドで区切られた緊急番号パターンの一覧。アウトバウンドのコールがいずれかのパターンに一致する場合、ATA はフックフラッシュイベント処理を無効にします。この条件は、通話が終了した後、通常の状態に復元されます。何も表示されない場合は、緊急番号が存在しないことを意味します。最大 63 文字を入力できます。</p> <p>デフォルト設定: 空白</p>
[メールボックスID]	<p>この回線のメールボックスの ID 番号を入力します。</p> <p>デフォルト設定: 空白</p>
[機能キーの同期 (Feature Key Sync)]	<p>電話機がコールサーバと同期できるようにします。電話機で [応答不可] または [着信転送設定] が変更された場合は、サーバにも変更が加えられます。サーバで変更が行われた場合は、電話機に反映されます。</p> <p>デフォルト設定: なし</p>

プロキシおよび登録

表 33: プロキシおよび登録パラメータ

フィールド	説明
[プロキシ (Proxy)]	<p>すべてのアウトバウンドリクエストに対して SIP プロキシサーバを使用します。</p> <p>デフォルト設定: 空白</p>

フィールド	説明
[発信プロキシ (Outbound Proxy)]	すべてのアウトバウンドリクエストが最初のホップとして送信される SIP アウトバウンド プロキシサーバ。 デフォルト設定: 空白
[アウトバウンドプロキシを使用 (Use Outbound Proxy)]	アウトバウンドプロキシの使用を有効にします。[いいえ]に設定すると、[アウトバウンドプロキシ]と[ダイアログでOBプロキシを使用]パラメータは無視されます。 デフォルト設定: なし
[ダイアログでOBプロキシを使用 (Use OB Proxy in Dialog)]	ダイアログ内でアウトバウンドプロキシへの SIP リクエストの強制送信の可否。[発信プロキシを使用する]パラメータが[いいえ]またはアウトバウンドプロキシパラメータが空の場合は無視されます。 デフォルト設定: あり
登録	プロキシへの定期登録を有効にします。このパラメータは、プロキシが指定されていない場合は無視されます。 デフォルト設定: あり
[登録なしで発信 (Make Call Without Reg)]	ユニットによる登録が成功 (ダイナミック) しなくても発信コールを可能にします。[いいえ]の場合、登録が成功しない限り、ダイヤルトーンは再生されません。 デフォルト設定: なし
[登録期限切れ (Register Expires)]	REGISTER リクエストの有効期限 (秒) です。ATA は、現在の登録が期限切れになる直前に登録を定期的に更新します。レジスタパラメータが [いいえ] の場合、このパラメータは無視されます。範囲: 0 ~ (231 - 1) 秒。 デフォルト設定: 3600
[登録なしでコールに応答 (Ans Call Without Reg)]	ユニットによる登録が成功 (ダイナミック) しなくても受信コール応答を可能にします。 デフォルト設定: なし
[DNS SRVを使用 (Use DNS SRV)]	プロキシとアウトバウンドプロキシの DNS SRV ルックアップの可否。 デフォルト設定: なし
[DNS SRV自動プレフィックス (DNS SRV Auto Prefix)]	有効になっている場合、ATA はプロキシまたはアウトバウンドプロキシ名について DNS SRV ルックアップを実行するときにその名前の前に <code>_sip._udp</code> が自動的に付加します。 デフォルト設定: なし

フィールド	説明
[プロキシフォールバック間隔 (Proxy Fallback Intvl)]	<p>低い優先順位のサーバにフェールオーバーすると、ATA は指定されたプロキシフォールバック間隔 (秒単位) を待って、最も優先順位の高いプロキシ (またはアウトバウンドプロキシ) サーバを再実行します。このパラメータは、サーバ名の DNS SRV レコード検索経由でプライマリおよびバックアッププロキシサーバのリストが ATA に提供されている場合にのみ有効です。</p> <p>複数の DNS A レコードを使用してサーバ名を指定すると優先順位の概念が許可されないため、すべてのホストが同じ優先順位であると見なされ、ATA はフェールオーバー後にフォールバックを実行しません。</p> <p>デフォルト設定: 3600</p>
[プロキシ冗長性メソッド (Proxy Redundancy Method)]	<p>ATA が DNS SRV レコードで返すプロキシのリストを作成するために使用する方式。標準を選択した場合、リストにはウェイトと優先順位でランク付けされたプロキシが含まれます。SRVポートに基づくを選択した場合、ATA は標準メソッドを使用した後、最初にリストされているプロキシポートに基づいてポート番号を確認します。</p> <p>デフォルト設定: 標準</p>
メールボックスサブスクライブ URL	<p>ボイスメールサーバの URL または IP アドレスを指定します。</p> <p>デフォルト設定: 空白</p>
メールボックスサブスクライブの有効期限	<p>ボイスメールメッセージの待機のサブスクリプション間隔を設定します。この期間が経過すると、ATA はボイスメールサーバに別のサブスクライブメッセージを送信します。</p> <p>デフォルト: 2147483647</p>

サブスクライバ情報

表 34: サブスクライバ情報パラメータ

フィールド	説明
表示名	<p>発信者 ID の表示名。</p> <p>デフォルト設定: 空白</p>
[ユーザ ID (User ID)]	<p>この回線のユーザ ID。</p> <p>デフォルト設定: 空白</p>

フィールド	説明
パスワード	この回線のパスワード。 デフォルト設定：空白
[認証 ID (Auth ID)]を使用する	SIP 認証に認証 ID とパスワードを使用する場合は、 はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択してユーザ ID とパスワードを使用します。 デフォルト設定: なし
[認証ID (Auth ID)]	SIP 認証の認証 ID。 デフォルト設定：空白
[居住地オンライン番号 (Resident Online Number)]	この設定では、Skype から有効な Skype オンライン番号を使用して、「ローカル」の電話番号をこの回線に関連付けることができます。その番号にコールすると電話が鳴ります。番号はスペースまたは特殊文字を含めずに入力します。 デフォルト設定：空白
SIP URI	ユーザ エージェントがこの回線に対して自身を識別するパラメータ。このフィールドが空白の場合、SIP シグナリングで使用される実際の URI が自動的に次のように作成されます。 <code>sip:UserName@Domain</code> UserName は [ユーザ ID (User ID)]でこの回線に指定したユーザ名で、Domain は [ユーザエージェント ドメイン (User Agent Domain)]でこのプロフィールに指定したドメインです。 [ユーザ エージェント ドメイン (User Agent Domain)]が空の文字列である場合、電話機の IP アドレスをドメインに使用する必要があります。 [URI] フィールドが空でない場合でも、SIP または SIPS URL に @ 文字が含まれていない場合、SIP シグナリングで使用される実際の URI は、このパラメータに @ 文字とその後ろにデバイスの IP アドレスを付加して、自動的に作成されます。

補足サービス サブスクリプション

ATA は、拡張サービスまたは補助サービスの大部分をネイティブサポートします。これらのサービスはすべてオプションです。次の表にリストされているパラメータは、特定の補足サービスを有効または無効にするために使用されます。a) ユーザが購読していない場合は、補足サービスを無効にする必要があります。または b)、サービスプロバイダーは、ATA に頼る以外の手段を使用して同様のサービスをサポートすることを意図しています。

表 35: 補足サービス サブスクリプション設定

フィールド	説明
コール待機サービス	コール待機サービスを有効にします。 デフォルト設定: あり
[ブロックCIDサービス (Block CID Serv)]	発信者 ID をブロックするサービスを有効にします。 デフォルト設定: あり
[ブロックANCサービス (Block ANC Serv)]	匿名コールブロックサービスの有効化 デフォルト設定: あり
独自の呼び出しサービス	独自の呼び出しサービスの有効化 デフォルト設定: あり
[不在転送サービス (Cfwd All Serv)]	不在転送すべてのサービスを有効にする デフォルト設定: あり
[話中転送サービス (Cfwd Busy Serv)]	話中転送サービスを有効にする デフォルト設定: あり
[無応答時転送サービス (Cfwd No Ans Serv)]	不在転送サービスを有効にする デフォルト設定: あり
通話転送サービス	通話転送の選択的選択サービスを有効にします。[通話転送の設定] セクションで、このサービスを設定します。 デフォルト設定: あり
(Cfwd Last Serv)	最後のコール サービスを転送可能にする デフォルト設定: あり
最後のサービスをブロックする	最後のコールサービスをブロックする デフォルト設定: あり
最後のサービスを受け入れる	最後のコールサービスを有効にする デフォルト設定: あり
[DNDサービス (DND Serv)]	応答不可サービスを有効にする デフォルト設定: あり
CID – Serv	発信者 ID サービスを有効にする デフォルト設定: あり

フィールド	説明
CWCID サービス	コール待機サービスの発信者 ID サービスを有効にします。 デフォルト設定: あり
コールリターン サービス	コールリターンサービスを有効にする デフォルト設定: あり
コールリダイヤル サービス	通話のリダイヤルサービスを有効にします。 デフォルト設定: あり
[コールバックサービス (Call Back Serv)]	コールバックサービスを有効にします。 デフォルト設定: あり
3 者コール サービス	3 者コールサービスを有効にします。3 者間電話会議と在籍転送には 3 者コールを使用する必要があります。 デフォルト設定: あり
3 者間電話会議サービス	3 者間電話会議サービスを有効または無効にします。在籍転送は 3 者間電話会議を行う必要があります。 デフォルト設定: あり
[在籍転送サービス (Attn Transfer Serv)]	在籍コール転送サービスを有効にする在籍転送は 3 者間電話会議を行う必要があります。 デフォルト設定: あり
非在籍コール転送サービス (Attn Transfer Serv)	非在籍 (ブラインド) 通話転送サービスを有効にする デフォルト設定: あり
MWI サービス	MWI サービスを有効にします。MWI は、音声メールサービスが展開に設定されている場合にのみ使用できます。 デフォルト設定: あり
VMWI サービス	VMWI サービス (FSK) を有効にする デフォルト設定: あり
短縮ダイヤルサービス (Speed Dial Serv)	短縮ダイヤルサービスを有効にします。 デフォルト設定: あり

フィールド	説明
[セキュアコールサービス (Secure Call Serv)]	<p>コールサービスの安全を確保します。この機能が有効になっている場合、ユーザはアクティベーションコード(デフォルトで*18)を入力する前に、ターゲット番号にダイヤルすることによって、セキュリティで保護された発信を行うことができます。次に、両方向の音声トラフィックは、通話中は暗号化されます。</p> <p>デフォルト設定: あり</p> <p>スターマークは特定業種向けサービス アクティベーションコードに設定されます。デフォルトで、スターマークなしでセキュアコールを有効にするには、ユーザのセキュアコールの設定を [はい] に設定します。ユーザー 1 およびユーザー 2 (61 ページ) を参照してください。</p>
照会先利用サービス (Referral Serv)	<p>照会サービスを有効にします。詳細については、特定業種向けサービス アクティベーションコード (31 ページ) の照会サービスコードのパラメータを参照してください。</p> <p>デフォルト設定: あり</p>
機能ダイヤルサービス (Feature Dial Serv)	<p>機能ダイヤルサービスを有効にします。詳細については、特定業種向けサービス アクティベーションコード (31 ページ) の機能ダイヤルサービスコードのパラメータを参照してください。</p> <p>デフォルト設定: あり</p>
サービス部門に関する発表サービス (Service Announcement Serv)	<p>サービス部門に関する発表サービスを有効にします。</p> <p>デフォルト設定: なし</p>
CID 番号を名前として再利用する	<p>発信者名として、発信者 ID 番号を使用します。</p> <p>デフォルト設定: あり</p>
CONFCID サービス (CONFCID Serv)	<p>電話会議中に発信者 ID を有効にします。</p> <p>デフォルト設定: あり</p>

音声設定

表 36: 音声設定の設定

フィールド	説明
[優先するコーデック (Preferred Codec)]	すべてのコールで優先されるコーデックです。(コールで実際に使用されるコーデックは、コーデックのネゴシエーションプロトコルの結果によっても異なります)。次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • G711u • G711a • G726-32 • G729a デフォルト設定: G711u.
[2番目の優先コーデック (Second Preferred Codec)]	最初のコーデックに障害が発生すると、2番目の優先コーデックが試行されます。 デフォルト設定: 空白
[3番目の優先コーデック (Third Preferred Codec)]	2番目のコーデックが失敗すると、3番目の優先度のコーデックが試行されます。 デフォルト設定: 空白
[優先コーデックのみを使用 (Use Pref Codec Only)]	すべてのコールに対して優先コーデックのみを使用する場合は、[はい (Yes)]を選択します(遠端がこのコーデックをサポートしていない場合は、コールが失敗します)。それ以外の場合は、いいえを選択します。 デフォルト設定: なし
[コーデックのネゴシエーション (Codec Negotiation)]	デフォルト に設定されている場合、Cisco IP 電話は 200 OK 応答で Invite に応答し、優先コーデックのみをアダプタイズします。 すべて リストに設定されている場合、Cisco IP 電話は応答して、電話機がサポートしているすべてのコーデックをリストします。 デフォルト設定: デフォルト
[G729a有効 (G729a Enable)]	8 kbps での G.729a コーデックの使用を有効にするには、 はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: あり

フィールド	説明
[サイレンスサブプレッション有効 (Silence Supp Enable)]	サイレンス サブプレッションを有効にして、サイレントオーディオフレームが送信されないようにするには、 はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: なし
G726-32 有効化	32 kbps での G.726 コーデックの使用を有効にするには、 はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: あり
サイレントのしきい値	しきい値に適切な設定を選択: 高 、 中 、または 低 デフォルト設定: 中
FAX V21 の検出の有効化	V21 fax トーンの検出を有効にするには、 はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: あり
エコーキャンセラの有効化	エコーキャンセラの使用を有効にするには、 はい を選択します。それ以外の場合は、[いいえ]を選択します。 デフォルト設定: あり
ファクス CNG 検出有効	Fax 呼び出しトーン (CNG) の検出を有効にするには、 はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: あり
FAX パススルーコーデック	Fax パススルーのコーデックを選択します。 g711u または G711a 。 デフォルト設定: G711u
FAX コーデック対称	Fax パススルー中に ATA が対称コーデックを使用するには、 はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: あり
DTMF プロセス情報	DTMF プロセス情報機能を使用するには、 はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: あり
FAX パススルーメソッド	Fax パススルー方式選択します。 なし 、 NSE 、または ReINVITE デフォルト設定: NSE

フィールド	説明
[DTMFプロセスAVT (DTMF Process AVT)]	DTMF プロセスの AVT 機能を使用するには、 はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: あり
FAX プロセス NSE	FaxプロセスのNSE機能を使用するには、 はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: あり
[DTMF Txメソッド (DTMF Tx Method)]	DTMF 信号を遠端に送信するメソッドを選択します。 InBand 、 AVT 、 INFO 、 Auto InBand : 音声パスを使用して DTMF を送信します。AVT は、DTMF を AVT イベントとして送信します。INFO : SIP INFO メソッドを使用します。Auto: コーデック ネゴシエーションの結果に基づいて InBand または AVT を使用します。 デフォルト設定: 自動
FAX Disable ECAN	有効にすると、Fax トーンが検出されたときにエコーキャンセラは自動的に無効になります。この機能を使用する場合は はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: なし
DTMF Tx モード	SIP 情報および AVT で DTMF 検出 Tx モードを使用できます。オプションには、 厳密 または 標準 があります。 デフォルト設定: 次の条件を満たす厳密なもの <ul style="list-style-type: none"> •DTMF 数字は、検出後に余分な保留時間が必要になります。 •DTMF レベルのしきい値は、-20 dBm に上げられます。 <p>最小および最大期間のしきい値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AVT および SIP の厳密モード: DTMF Tx Strict Hold Off Time で設定された値 • AVT の標準モード: 40 ms • SIP の標準モード: 50 ms

フィールド	説明
DTMF Tx 厳密ホールドオフタイム	このパラメータは、DTMF Tx モードが[厳密]に設定されていて、DTMF Tx メソッドが [Inband] に設定されていない場合にのみ有効です。つまり、AVT または INFO のいずれかです。この値は、40 ミリ秒まで低く設定できます。最大数の制限はありません。値を大きくすると、会話中にトークオフ(ビーブ音)が発生する可能性が低くなり、対話型の音声応答システム (IVR) に必要な DTMF 検出のパフォーマンスが低下します。 デフォルト設定: 70 ms
FAX 有効化 T38	FAX リレーのための ITU-T 標準の使用を有効にするには、 はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: なし
Flash Tx メソッドのフック	シグナリング フック フラッシュ イベントのメソッドを選択します。 なし 、 AVT 、または INFO [なし] は、フック フラッシュ イベントをシグナリングしません。AVT は、RFC2833 AVT (event = 16) 情報を使用して、メッセージ本文で単一回線シグナル = hf で SIP 情報を使用します。このメッセージ本文の MIME タイプは、フックフラッシュ MIME タイプ設定から取得されます。 デフォルト設定: なし
FAX の T38 冗長性	各パケットで繰り返す前のパケットのペイロードの数を指定するために、適切な番号を選択します。ペイロードを冗長化しない場合は 0 を選択します。番号が大きいほど、パケットサイズは大きくなり、使用される帯域幅も広がります。 デフォルト設定: 1
ファクス T38 ECM 有効化	エラー修正モードを有効にするには、 はい を選択します。それ以外の場合は、 いいえ を選択します。 デフォルト設定: あり
FAX トーン検出モード	このパラメータには、次の 3 つの値があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 発信者または呼び出し先: ATA は、呼び出し先か発信者かにかかわらず、FAX トーンを検出します • 発信者のみ: ATA は発信者である場合にのみ、FAX トーンを検出します。 • 呼び出し先のみ: ATA は、呼び出し先である場合にのみ、FAX トーンを検出します。 デフォルト設定: 発信者または呼び出し先

フィールド	説明
対称 RTP	対称 RTP 操作を有効にします。有効にした場合、ATA は、最後に受信した有効な着信 RTP パケットの送信元アドレスとポートに RTP パケットを送信します。無効にした場合 (または最初の RTP パケットが到着する前)、ATA は、着信 SDP に示されているとおりに RTP を通知先に送信します。 デフォルト設定: なし
Fax T38 音声に戻る	この機能が有効になっている場合、Fax イメージの転送が完了すると、接続は確立されたままになり、以前に指定されたコーデックを使用して音声コールに戻ります。この機能を有効にする場合は はい を選択し、無効にする場合は いいえ を選択します。 デフォルト設定: なし
Modem Line	別の方法を有効にして、モデム回線を使用せずにモデムを呼び出すようにするコードの事前ダイヤルを切り替えます。 デフォルト設定: なし
リモート保留での RTP からプロキシへの入力	リモート側によって回線が保持されているときに、RTP をプロキシに送信することができます。 デフォルト設定: なし

ダイヤルプラン

回線のデフォルトのダイヤルプラン スクリプトは次のようになります。

```
(*xx|[3469]11|0|00|[2-9]xxxxxxxx|1xxx[2-9]xxxxxxxx|xxxxxxxxxxxxxxxx.)
```

各パラメータはセミコロンで区切られます。

例 1:

```
*1xxxxxxxxxx<:@fwdnat.pulver.com:5082;uid=jsmith;pwd=xyz
```

例 2:

```
*1xxxxxxxxxx<:@fwd.pulver.com;nat;uid=jsmith;pwd=xyz
```

ダイヤルプラン式のシンタックスについては、次の表で説明します。

表 37: ダイヤルプラン設定

ダイヤルプラン エントリ	機能機能(Functionality)
*xx	任意の 2 桁のスターコードを許可
[3469]11	X11 シーケンスを許可

ダイヤル プラン エントリ	機能機能(Functionality)
0	演算子
00	Int'l 演算子
[2-9]xxxxxx	米国市内番号
1xxx[2-9]xxxxxx	米国 1 + 10 桁の市外通話番号
xxxxxxxxxxxx.	その他すべて

FXS ポートの極性構成

表 38: FXS ポートの極性設定

フィールド	説明
アイドル極性	コールが接続される前の極性 (Forward または Reverse)。 デフォルト設定: Forward
発信者接続極性	アウトバウンドコール後に接続した場合の極性: Forward または Reverse デフォルト設定: Forward
着信者接続極性	インバウンドコールが接続された後の極性: Forward または Reverse デフォルト設定: Forward

ユーザー 1 およびユーザー 2

電話 1 および電話 2 のポートを介したユーザ設定を設定するには、**音声 > ユーザー 1** ページおよび **音声 > ユーザー 2** ページから行います。

以下の説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、**送信** をクリックして設定を保存するか、**キャンセル** をクリックして、設定を保存したページを再表示します。

コール転送の設定

表 39: コール転送の設定

フィールド	説明
不在転送宛先 (Cfwd All Dest)	コール転送のすべてのサービスの転送番号。 デフォルト設定：空白
[話中転送宛先 (Cfwd Busy Dest)]	コール転送話中サービスの転送番号。Cfwd All Dest と同じ。 デフォルト設定：空白
[無応答時転送宛先 (Cfwd No Ans Dest)]	コール転送の応答不可サービスの転送番号。Cfwd All Dest と同じ。 デフォルト設定：空白
[無応答時転送遅延 (Cfwd No Ans Delay)]	コール転送前の秒単位の遅延応答トリガーがありません。 デフォルト設定：20

選択した通話転送設定

表 40: 選択した通話転送設定

フィールド	説明
Cfwd Sel1-8 発信者	<p>コール転送選択的サービスをトリガーする発信者番号パターン。エントリに一致する発信者の電話番号がある場合、そのコールは対応する Cfwd の選択した接続先に転送されます。(Cfwd Sel1-8 Dest)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 使用?して任意の1桁の数字と一致します。 • 使用*して任意の桁の数字に一致します。 <p>例: 1408 *, 1512???1234</p> <p>上記の例では、発信者 ID が 1408 で始まる場合、または 1512 で始まり 1234 で終わる 11 桁の番号である場合、コールは対応する宛先に転送されます。</p> <p>デフォルト設定：空白</p>
Cfwd Sel1-8 Dest	<p>対応する通話転送の選択した発信者のパターン (Cfwd Sel1-8 発信者) の通知先。</p> <p>デフォルト設定：空白</p>

フィールド	説明
Cfwd 前回の発信者	最後の発信者の番号。この発信者は、通話転送の最後のサービスを介して、Cfwd Last Dest にアクティブに転送されます。詳細については、 特定業種向けサービス アクティベーションコード (31 ページ) を参照してください。 デフォルト設定：空白
Cfwd Last Dest.	Cfwd 前回の発信者の接続先
最後の発信者をブロックする	最後の発信者の番号。この発信者は、最後の発信者サービスのブロックからブロックされます。詳細については、 特定業種向けサービス アクティベーションコード (31 ページ) を参照してください。 デフォルト設定：空白
前回の発信者の受け入れ	最後の発信者の番号。この発信者は、最後の発信者サービスを承諾することによって承諾されます。詳細については、 特定業種向けサービス アクティベーションコード (31 ページ) を参照してください。 デフォルト設定：空白

スピードダイヤルの設定

表 41: スピードダイヤルの設定

フィールド	説明
短縮ダイヤル 2-9	短縮ダイヤル 2、3、4、5、6、7、8、または 9 に割り当てられたターゲットの電話番号（または URL）。 デフォルト設定：空白

補足サービス設定

表 42: 補足サービス設定

フィールド	説明
[CW設定 (CW Setting)]	すべてのコールに対して、待機のオン/オフを切り替えます。 デフォルト設定: あり

フィールド	説明
ブロック CID	すべてのコールに対してブロック発信者 ID のオン/オフを設定します。 デフォルト設定: なし
ブロック ANC	匿名コールのブロックのオンとオフを設定します。 デフォルト設定: なし
着信拒否 (DND)	DND のオン、オフを設定しています。 デフォルト設定: なし
CID 設定	発信者 ID の生成のオンまたはオフ。 デフォルト設定: あり
CWCID 設定	コール ウェイティング発信者 ID の生成のオンまたはオフ。 デフォルト設定: あり
Dist Ring	特殊呼出のオン、オフの設定 デフォルト設定: あり
[セキュアコール設定 (Secure Call Setting)]	<p>[はい] の場合、すべての発信コールはデフォルトでセキュリティで保護されたコールであり、ユーザがまずスターコードをダイヤルする必要はありません。</p> <p>デフォルト設定: なし</p> <ul style="list-style-type: none"> セキュア着信設定を はい に設定すると、すべての発信コールが安全になります。ただし、ユーザはターゲット番号をダイヤルする前にダイヤル *19 を使用して、コールのセキュリティを無効にすることができます。 [安全な発信] が いいえ に設定されている場合、ユーザは *18 をダイヤルしてからターゲット番号にダイヤルすることによって発信コールを作成できます。 ユーザは、着信コールを強制的に安全にしたり、非安全にすることはできません。発信者がセキュリティを有効にしているかどうかによって異なります。 <p>(注) この設定は、回線インターフェイス上で安全な発信を [はい] に設定した場合にのみ適用されます。回線 1 と回線 2 (電話 1 と電話 2) の設定 (2 ページ) を参照してください。</p>

フィールド	説明
メッセージ待機	<p>この値を [はい] に設定すると、途切れるトーンと VMWI 信号を有効にできます。このパラメータは、長期的にはメモリに保存され、再起動または電源サイクル後も存続します。</p> <p>デフォルト設定: なし</p>
メディアループバック リクエストの受け入れ	<p>ループバック操作の着信リクエストの処理方法を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • なし: ループバックコールを受け入れません。486 に応答して発信者に応答します。 • 自動: コールを自動的に呼び出しせずに受信します。 • 手動: 最初に電話をかけ、ループバックを開始する前に手動でコールを選択する必要があります。 <p>デフォルト設定: 自動</p>
メディアループバック モード	<p>メディアループバックをリクエストするためにコールを行う場合のローカルとしてのループバックモード。選択肢は、ソースおよびミラーです。</p> <p>デフォルト設定: ソース</p> <p>(注) ATA がコールに応答する場合、モードは発信者によって決定されます。</p>
メディアループバック タイプ	<p>メディアループバック操作をリクエストする際にコールを行うときに使用するループバックのタイプ。選択肢はメディアとパケットです。</p> <p>デフォルト設定: メディア</p> <p>ATA がコールに応答する場合、ループバックタイプは発信者が決定することを留意してください (ATA は、複数のタイプが含まれている場合は、常に最初のループバックタイプを選択します)</p>
CONFID 設定	<p>CONFID を有効または無効にします。</p> <p>デフォルト設定: あり</p>

固有呼び出し音設定

表 43: 特殊呼び出し音パラメータ

フィールド	説明
Ring1-8 発信者	<p>特有の呼出音/CWT 1、2、3、4、5、6、7、または8を再生する発信者番号のパターン。発信者の数字パターンは、呼出音1から呼出音8に対応しています。最初に一致した(最も近い一致ではない)が、サブスクライバーにアラートを通知するために使用されます。特有の呼び出しは、地域のページに設定されています。地域 (21 ページ) を参照してください。</p> <p>デフォルト設定：空白</p>

呼出音設定

表 44: リングパラメータ

フィールド	説明
[デフォルト呼出音 (Default Ring)]	<p>すべての発信者に対して、デフォルトの呼び出し音パターン1~8を使用します。</p> <p>デフォルト設定：1</p>
デフォルト CWT	<p>すべての発信者に対して、デフォルトの CWT パターン1~8を使用します。</p> <p>デフォルト設定：1</p>
保留リマインダ着信音	<p>電話機がオンフックのときに、保留中のコールをアラームする呼出音のパターンです。</p> <p>デフォルト設定：8</p>
コールバック着信音	<p>コールバック通知の呼出音のパターン。</p> <p>デフォルト設定：7</p>
Cfwd 着信音のフラッシュ長	<p>コールが転送された場合の呼出音の再生時間 (0~10.0秒)</p> <p>デフォルト設定：0</p>
Cblk 呼出フラッシュ長	<p>コールがブロックされた場合の呼出音の再生時間 (0~10.0秒)</p> <p>デフォルト設定：0</p>

フィールド	説明
VMWI リング ポリシー	<p>このパラメータで制御するのは、VM サーバが SIP NOTIFY メッセージを ATA に送信し、そのメールボックスのステータスを示している場合です。3つの設定を利用できます。</p> <p>デフォルト設定: 利用可能な新しい VM</p> <ul style="list-style-type: none"> • 使用可能な新しい VM: 新しいボイスメールメッセージがある限り、音が鳴ります。 • 新しい VM が利用可能になりました: 最初の新しいボイスメールメッセージが受信された時点で呼び出されます。 • 新しい VM が到着: 新しいボイスメールメッセージの数が増えると、呼び出し音が鳴ります。
VMWI 着信音のフラッシュ長:	<p>VMWI シグナルが適用される前に新しいメッセージが届いた場合の呼出音の再生時間 (0 ~ 10.0秒)</p> <p>デフォルト設定: 0</p>
新しい VM が存在しない場合の着信音	<p>有効にした場合、まだ未読のボイスメールがないことを示す SIP NOTIFY メッセージをボイスメールサーバから ATA に送信すると、ATA はリングのフラッシュを再生します。一部の装置では、FSK 信号の前にショートリングを入れて、VMWI ランプをオフにする必要があります。</p> <p>デフォルト設定: なし</p>

